



613-001466 Rev.B 110610

AlliedView[®] NMS

導入ガイド

Software Version R12

アライドテレスिस株式会社



目次

目次.....	2
本書について	4
表示画面	4
商標について	4
ユーザーサポート.....	4
ご注意	4
1 インストール手順	5
1.1 AlliedView NMSのインストール	5
1.2 ライセンスキーのインストール	10
1.3 パッチファイルのインストール	11
1.4 AlliedView NMSのシャットダウン.....	13
2 基本操作	15
2.1 ディスカバリー機能.....	15
2.1.1 ディスカバリー機能の設定.....	15
2.1.2 CLIノードとSNMPノードの違い.....	19
2.2 クライアントツールの使用.....	20
2.2.1 Webブラウザからの起動.....	20
2.2.2 スタートメニューからの起動.....	21
2.3 ノードの手動追加	21
2.4 Syslogサーバー機能.....	23
2.4.1 Syslogサーバーの設定	23
2.4.2 Syslog をトリガーにしたアクションの実行.....	24
2.5 SNMPマネージャー機能.....	32
2.5.1 SNMP MIBブラウザ	32
2.5.2 統計情報の取得とグラフ表示.....	34

2.6	シャーシビュー機能	37
2.7	コンフィグレーションファイル管理機能.....	38
3	ネットワークマップ機能	43
3.1	画面構成	43
3.1.1	マップ画面の表示	43
3.1.2	マップシンボル.....	44
3.2	デフォルトマップ.....	45
3.2.1	Physical Networkマップ	45
3.2.2	Routersマップ	46
3.2.3	Failed Nodesマップ.....	46
3.2.4	IP Networkマップ	47
3.2.5	VLAN Networkマップ.....	47
3.3	リンク設定.....	48
4	補足資料	51
	マニュアルバージョン	52

本書について

本書は AlliedView[®] NMS の導入ガイドです。インストールから基本的な設定、ネットワーク管理までを説明しています。

各機能の詳細については、英語版オンラインヘルプ「NMS Administration Guide」および「NMS User Guide」をご参照ください。

表示画面

本マニュアルの執筆時には開発中のバージョンを用いたため、画面表示などが実際の製品とは異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

商標について

- Windows、Windows Server は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他、本書に記載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、弊社 Web サイトに掲載の「サポートに必要な情報」をご確認のうえ、弊社サポートセンターへご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 サポートセンター

<http://www.allied-telesis.co.jp/support/info/>

フリーダイヤル: 0120-860772

携帯電話/PHS からは: 045-476-6203

月～金(祝・祭日を除く) 9:00 ~ 12:00

13:00 ~ 17:00

ご注意

- 本書に関する著作権等の知的財産権は、アライドテレシス株式会社(弊社)の親会社であるアライドテレシスホールディングス株式会社が所有しています。
- アライドテレシスホールディングス株式会社の同意を得ることなく、本書の全体または一部をコピーまたは転載しないでください。
- 弊社は、予告なく本書の全体または一部を修正・改訂することがあります。
- また、弊社は改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。

1

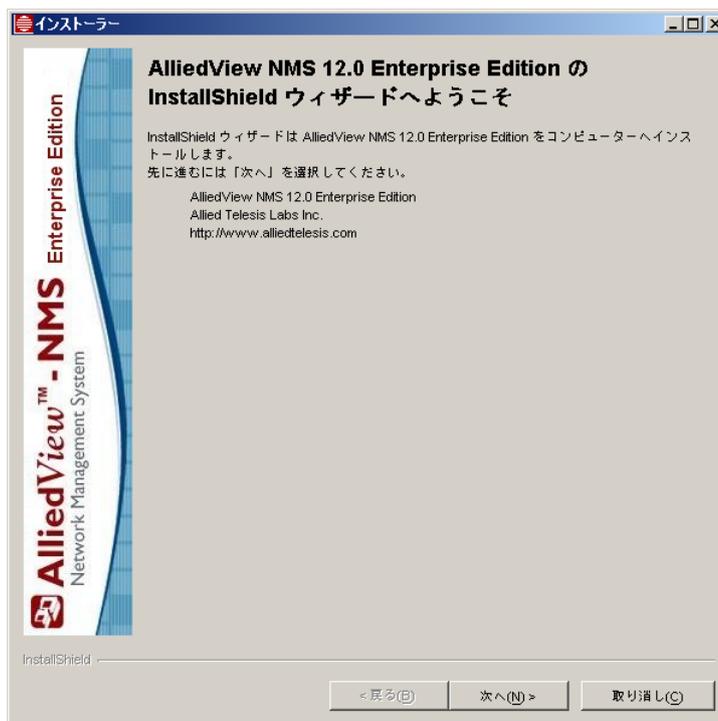
インストール手順

AlliedView[®] NMS (以下、AlliedView NMS)をインストールする方法について説明します。

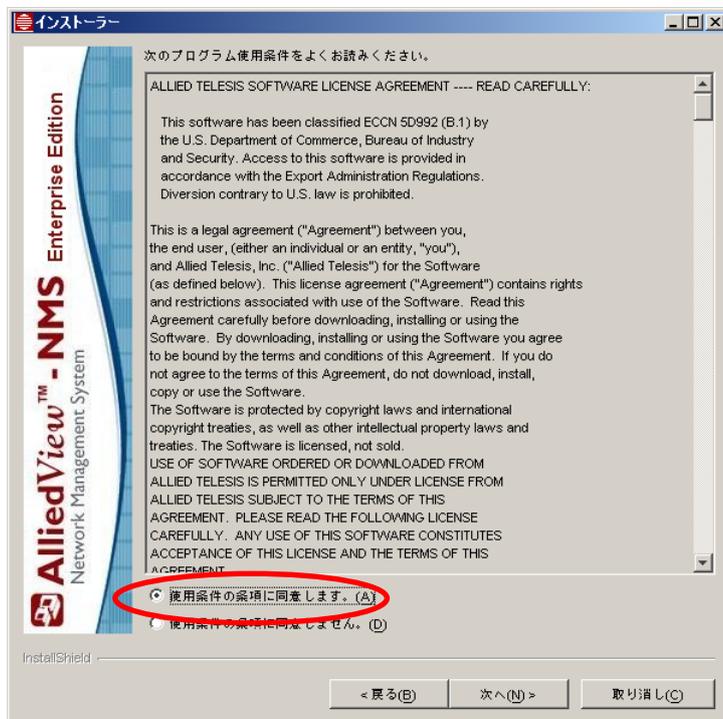
1.1 AlliedView NMSのインストール

AlliedView NMS の新規インストールは以下の手順で行います。

- (1) AlliedView NMS のインストーラーを実行します。
- (2) 下記のダイアログが表示されたら、「次へ」をクリックします。



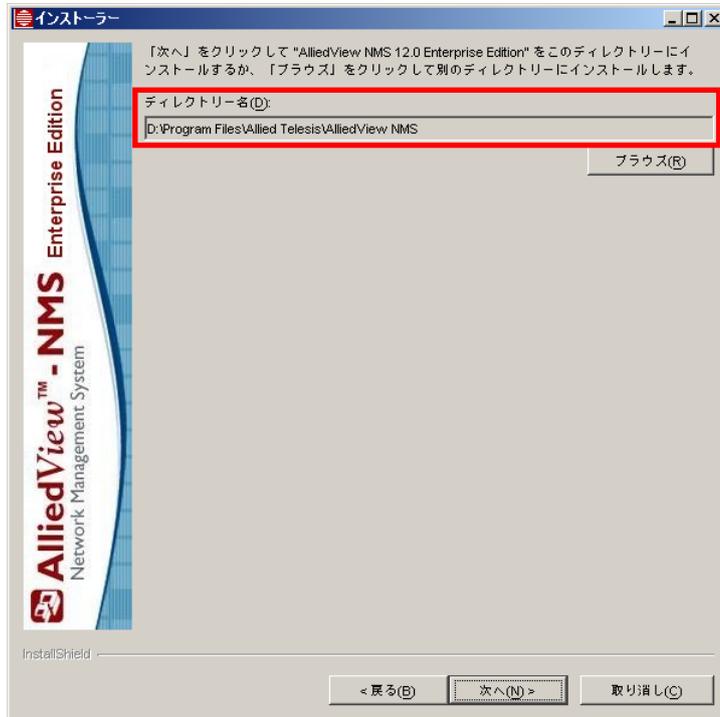
- (3) 本ソフトウェアライセンスをご購入いただいたお客様へは、封筒記載のソフトウェア使用権許諾契約書が適用されますので、この画面では「使用条件の条項に同意します。」にチェックを入れ、「次へ」をクリックします。



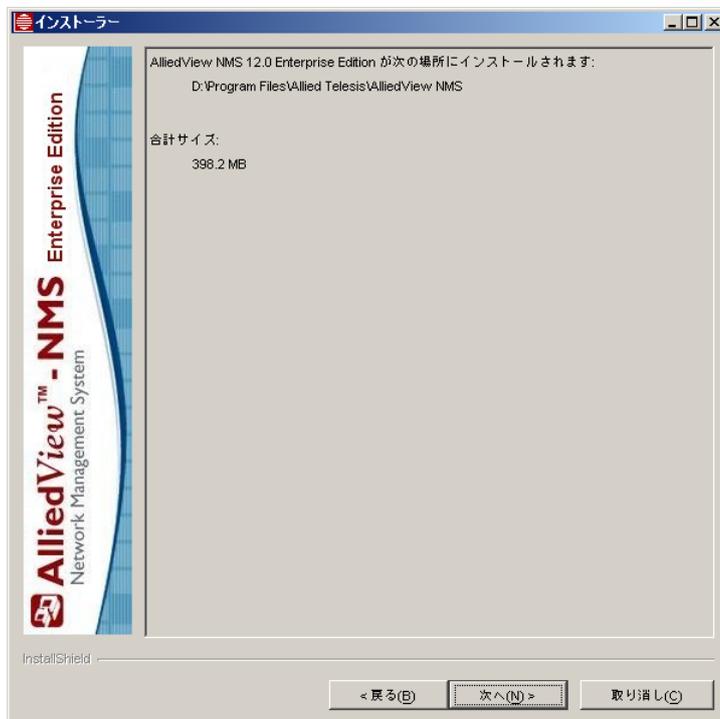
- (4) AlliedView NMS をインストールするサーバー機がシステム要件を満たしていることを確認後、「次へ」をクリックします。



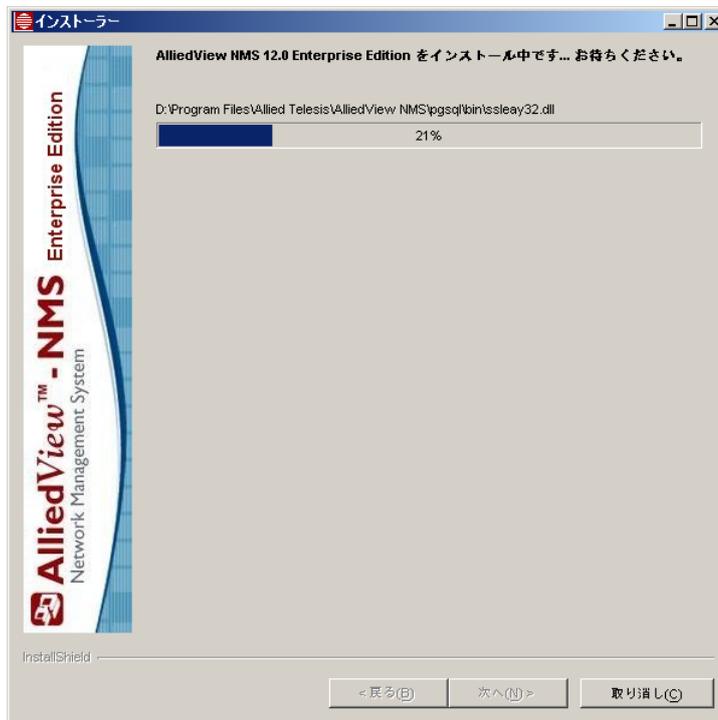
- (5) AlliedView NMS をインストールするディレクトリー(特に指定がなければデフォルト値を使用)を指定し、「次へ」をクリックします。



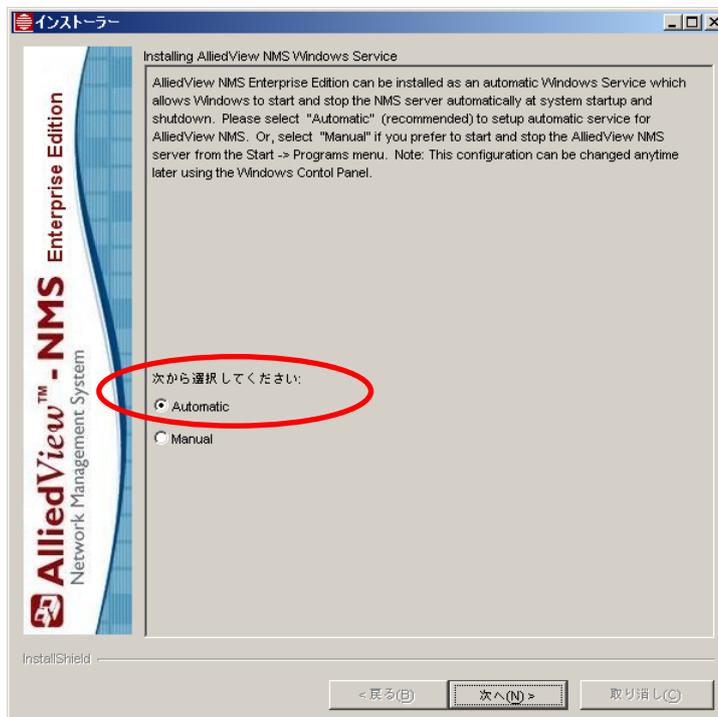
- (6) ハードディスクの空き容量が充分であることを確認後、「次へ」をクリックし、インストールを開始します。



(7) AlliedView NMS のインストールが始まります。



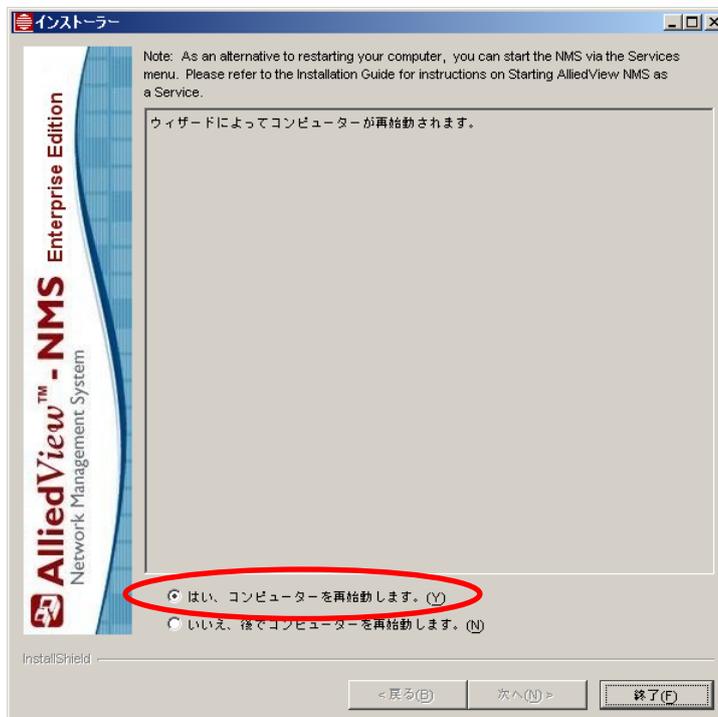
(8) AlliedView NMS を Windows サービスに登録するかどうかを選択します。
Windows 起動時に自動的に起動させたい場合は「Automatic」を選択し、「次へ」をクリックします。



(9) 「次へ」をクリックします。



(10) 下記のメッセージが表示されます。「はい、コンピューターを再起動します。」を選択し、「終了」をクリックします。

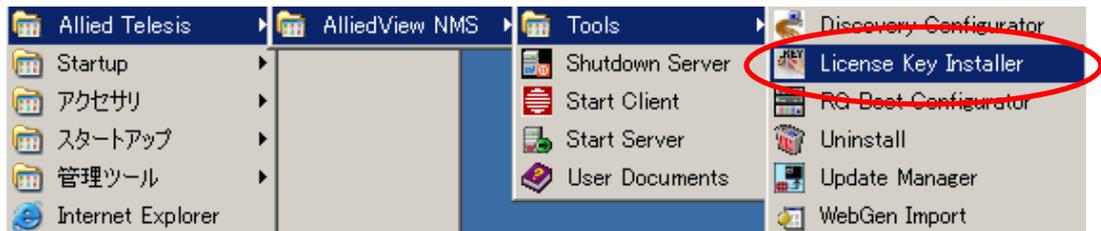


以上で AlliedView NMS のインストールは完了です。

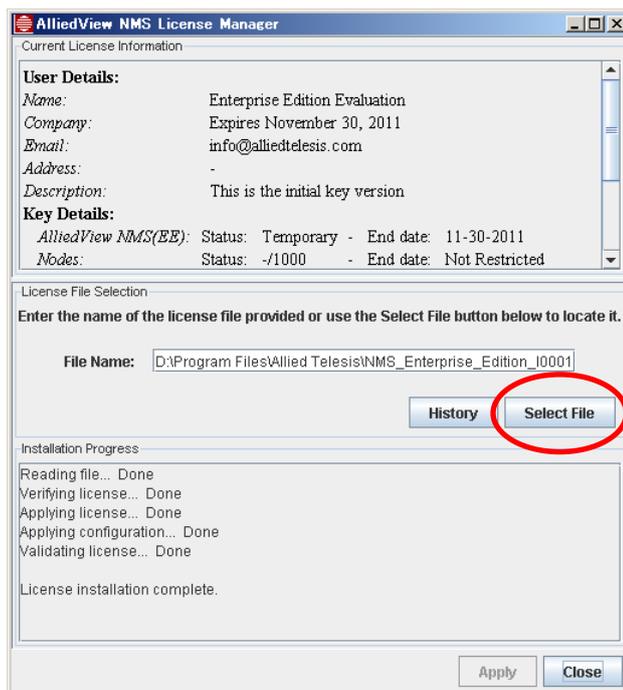
1.2 ライセンスキーのインストール

次に、以下の手順でライセンスキーのインストールを行います。

- (1) 「スタート」→「プログラム」→「Allied Telesis」→「AlliedView NMS」→「Tools」の順に進み、「License Key Installer」を選択します。



- (2) 下記のダイアログが表示されたら「Select File」をクリックし、ファイル選択画面でインストールするライセンスファイル(拡張子は「.upd」)を選択します。
ライセンスファイルを選択後、「Apply」をクリックします。

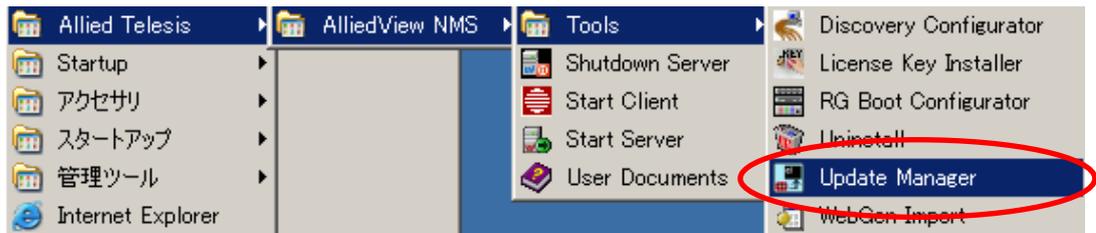


- (3) インストール実行中は、「Installation Progress」ダイアログが表示されます。「License installation complete」と表示されたら、ライセンスキーのインストールは完了です。「Close」をクリックしてダイアログを閉じます。

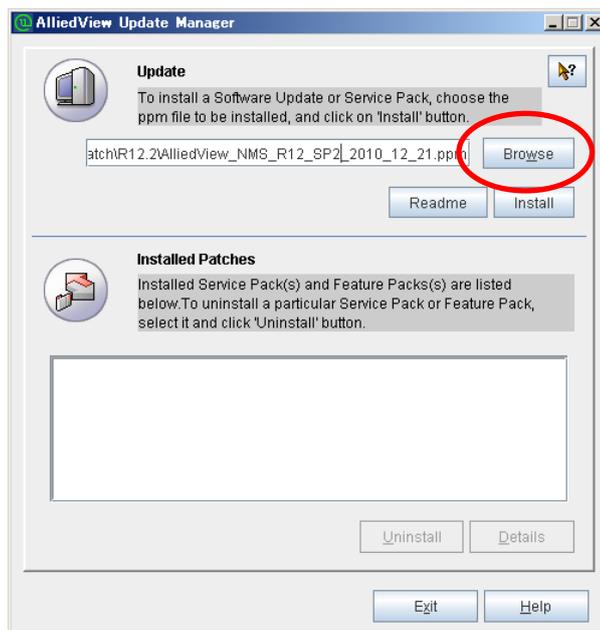
1.3 パッチファイルのインストール

続いて、以下の手順でパッチファイルのインストールを行います。

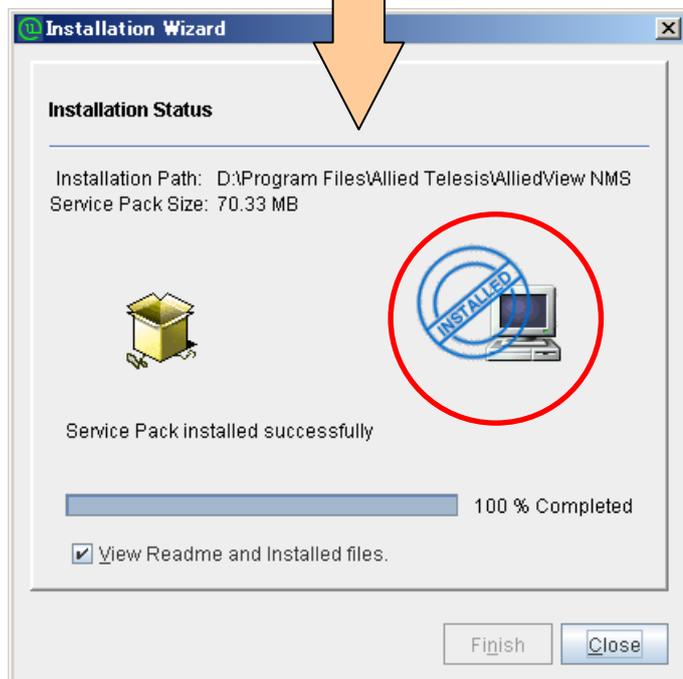
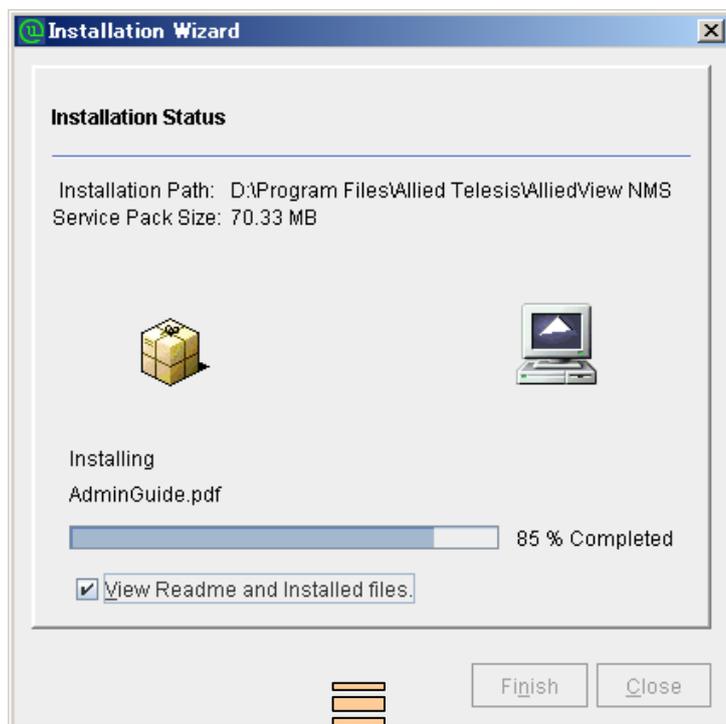
- (1) [「1.4 AlliedView NMSのシャットダウン」](#)の手順でサーバーを停止します。
- (2) 「スタート」→「プログラム」→「Allied Telesis」→「AlliedView NMS」→「Tools」の順に進み、「Update Manager」を選択します。



- (3) 下記のダイアログが表示されたら「Browse」をクリックし、ファイル選択画面でインストールするパッチファイル(拡張子は「.ppm」)を選択します。
パッチファイルを選択後、「Install」をクリックします。



(4) インストール実行中は、下記のステータス画面が表示されます。

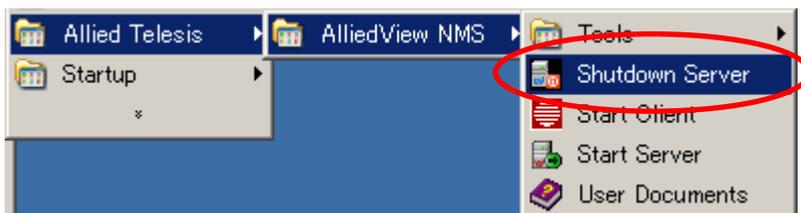


「INSTALLED」のスタンプが表示されたら、パッチファイルのインストールは完了です。

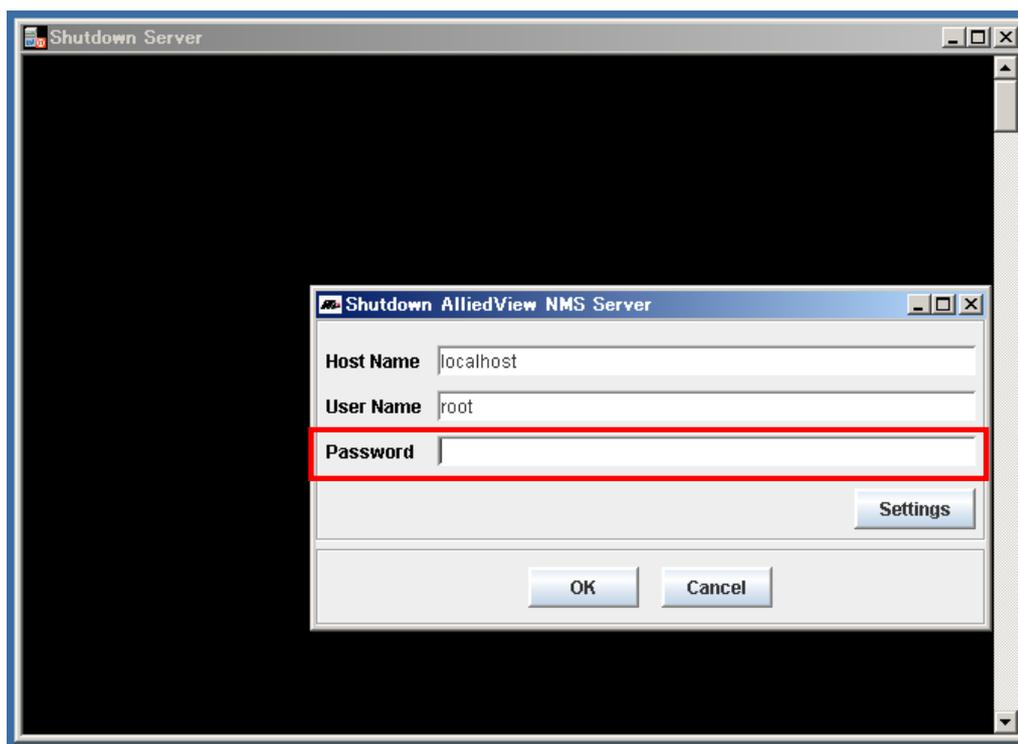
1.4 AlliedView NMSのシャットダウン

AlliedView NMS のシャットダウンは以下の手順で行います。

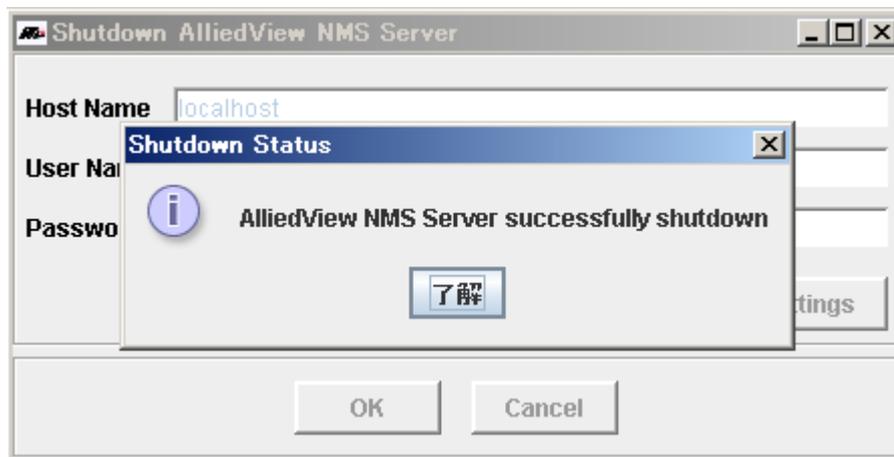
- (1) 接続しているすべてのクライアントツールを終了します。
- (2) 「スタート」→「プログラム」→「Allied Telesis」→「AlliedView NMS」の順に進み、「Shutdown Server」を選択します。



- (3) AlliedView NMS をシャットダウンするためのアカウント情報入力画面が表示されます。管理者パスワードを入力し、「OK」をクリックします。



- (4) 「AlliedView NMS Server successfully shutdown」とメッセージが表示されるので、「了解」をクリックします。



以上でシャットダウン完了です。

2

基本操作

AlliedView NMSの基本操作について説明します。

2.1 ディスカバリー機能

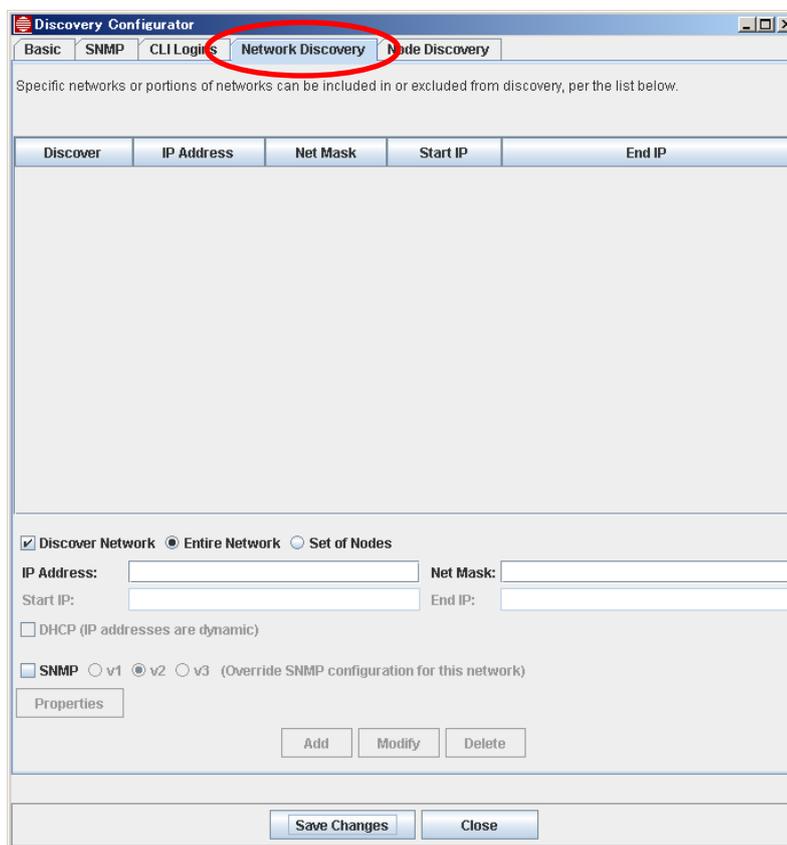
ディスカバリー機能を使用すると、自動的にネットワーク上のノードを探査し、監視対象にすることができます。なお、事前にノード側にて本製品を SNMP マネージャーおよび Trap ホストとする SNMP の設定が必要です。

2.1.1 ディスカバリー機能の設定

- (1) 「スタート」→「プログラム」→「Allied Telesis」→「AlliedView NMS」→「Tools」の順に進み、「Discovery Configurator」を選択します。



- (2) 下記のダイアログが表示されたら、「Network Discovery」タブを選択します。自動探索を行うネットワーク情報を入力し、「Add」をクリックします。



以下にネットワーク情報の設定例の画面を示します。

【設定例】	
検索範囲	192.168.1.100/24 から 192.168.1.200/24 まで
使用プロトコル	SNMP version 2c コミュニティ名「public」 UDP ポート番号「161」
※ここで設定したパラメーターは後述する「SNMP」タブで設定したパラメーターより優先されます。	

The image shows two screenshots of a network configuration interface. The top screenshot is the main configuration window, and the bottom screenshot is the 'SNMP Properties' dialog box. A red box highlights the 'Properties' button in the top screenshot, and a callout bubble with an arrow points to the 'SNMP Properties' dialog box in the bottom screenshot. The callout bubble contains the text: 「Properties」ボタンをクリックして、「SNMP Properties」ダイアログを表示. The 'SNMP Properties' dialog box has a red box around the 'Community' and 'SNMP Agent Port' fields, which contain the values 'public' and '161' respectively.

Discover Network Entire Network Set of Nodes

IP Address: 192.168.1.0 Net Mask: 255.255.255.0

Start IP: 192.168.1.100 End IP: 192.168.1.200

DHCP (IP addresses are dynamic)

SNMP v1 v2 v3 (Override SNMP configuration for this network)

Properties

Add Modify Delete

SNMP Properties

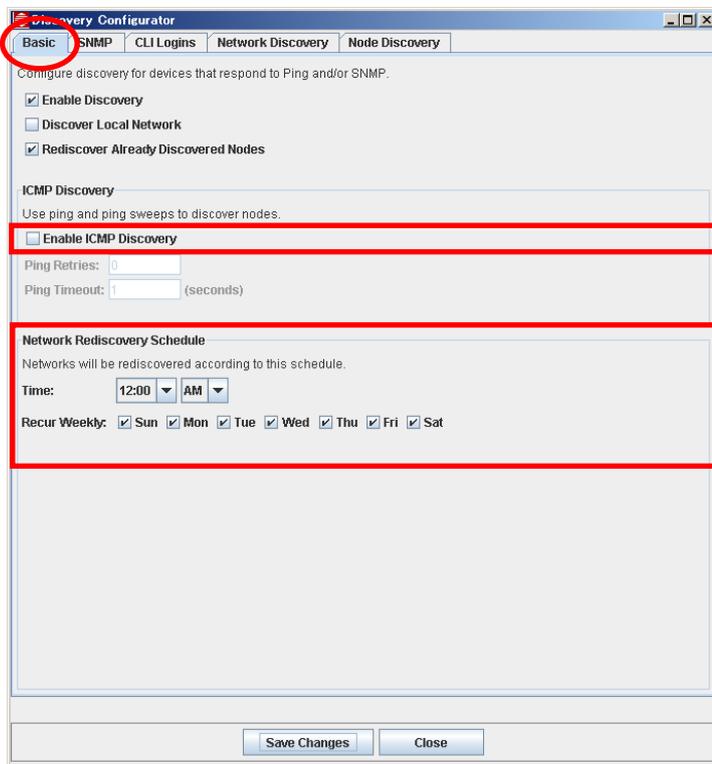
Community: public

SNMP Agent Port: 161

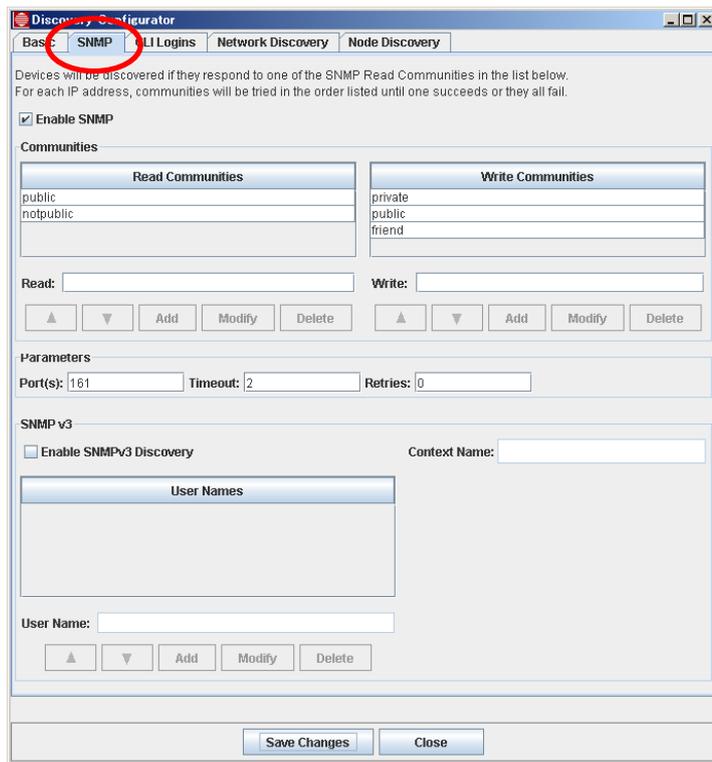
OK Cancel

「Properties」ボタンをクリックして、「SNMP Properties」ダイアログを表示

- (3) スケジュール機能を使用することで、定期的にネットワーク上のノードの再探索を行うことができます。
「Basic」タブを選択し、再探索のスケジュールを指定します。
「Enable ICMP Discovery」にチェックを入れることで、ICMP によるノードの探索が可能になります。



- (4) 「SNMP」タブでは、探索で使用する SNMP のパラメーターを設定できます。



- (5) 「CLI Logins」タブでは、機器のログインアカウント情報を登録します。
 AlliedView NMS が CLI ノードとしてサポートしている製品で、デフォルトと異なるログインアカウントを使用している場合は、ここにアカウント情報を登録します。

Discovery Configuration

Basic **CLI Logins** Network Discovery Node Discovery

CLI Logins will be attempted to each discovered device using the login credentials from the list below.
 For each device, logins will be attempted in the order listed until one succeeds or they all fail.

Type	Protocol	User Id	Hints	Description
login	telnet	manager	Rapier, RG600	Factory default login for AR-XXX, AT-XXXX, IMG/...
login	telnet	officer	Telesyn	Factory default login for IMAP Devices
login	telnet	admin	GenBand	Factory default login for GenBand
login	telnet	root	Comtrend	Factory default login for Comtrend devices
login	telnet	support	Comtrend	Factory support login for Comtrend devices
login	telnet	netscreen	Juniper	Factory default for Juniper devices
login	telnet	admin	Extreme	Factory default for Extreme devices
login	telnet	admin	A10 Networks	Factory default for A10 Networks devices
tacacs+	telnet	tacacs+		Default TACACS+ security officer passcode

Login Type: User Security Officer Protocol: telnet

User Id: Password:

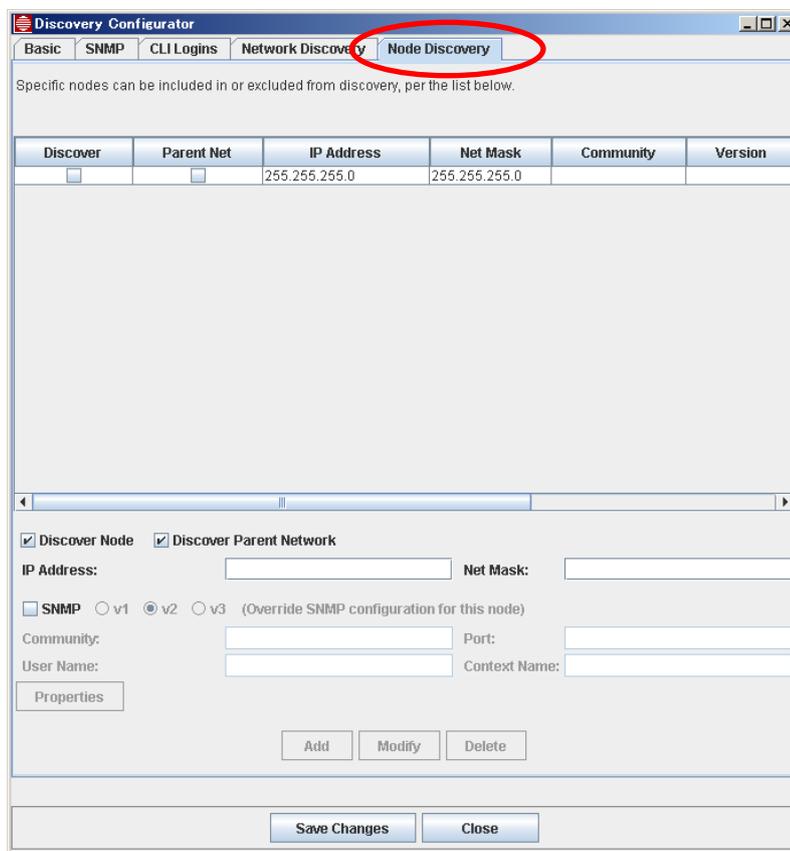
Hints:

Description:

▲ ▼ Add Modify Delete

Save Changes Close

(6) 「Node Discovery」タブでは、ネットワーク単位ではなくノード単位で探索を行うことができます。



2.1.2 CLIノードとSNMPノードの違い

AlliedView NMS によって判別される CLI ノードと SNMP ノードには、下記の違いがあります。

機能名	CLI ノード	SNMP ノード
SNMP エージェント	○	○
SNMP で統計情報の取得 / グラフ化	○	○
Ping 死活監視	○	○
Syslog エージェント	○	○
Syslog をトリガーにしたアクション	○	○
イベントをトリガーにしたアクション	○	○
アラームをトリガーにしたアクション	○	○
ファームウェア管理	○	—
コンフィグレーション管理	○	—
スクリプトファイル管理	○	—
シャーシビュー	○	—
VLAN 設定変更	○	—
EPSR ネットワーク管理	○	—
SNMP による IP Map 作成	○	○
LLDP による VLAN Map 作成	○	—
TELNET ログイン	○	○
SSH ログイン	○	○

※表中の「○」は対応、「—」は未対応を表します。

2.2 クライアントツールの使用

AlliedView NMS のクライアントツールにログインする方法について説明します。
クライアントツールの起動方法は 2 種類あります。

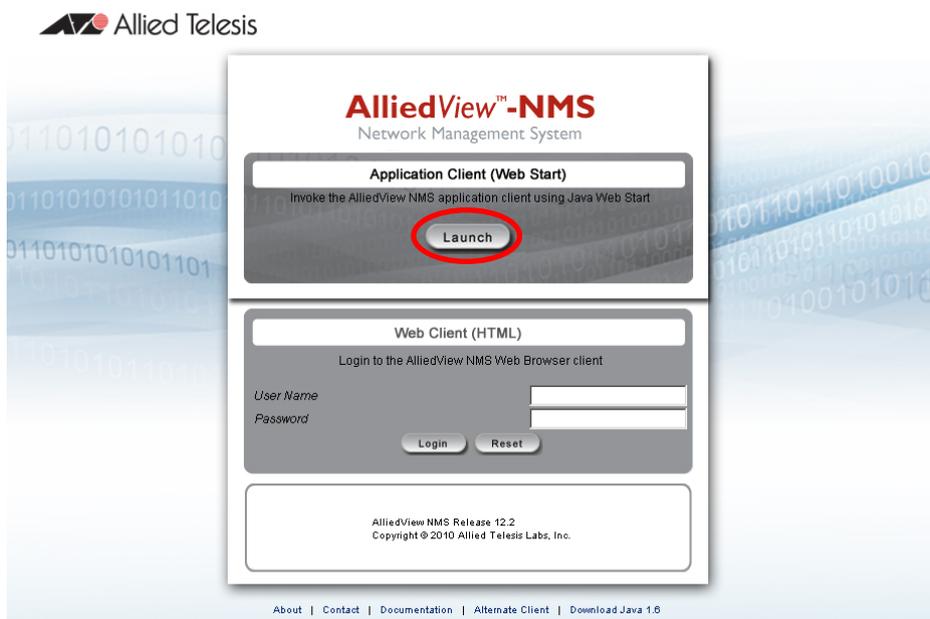
※Web クライアント(Web ブラウザ経由での操作)は未サポートです。

2.2.1 Webブラウザからの起動

(1) Web ブラウザを起動し、下記アドレスにアクセスします。

http://[サーバーの IP アドレスまたはホスト名:9090]

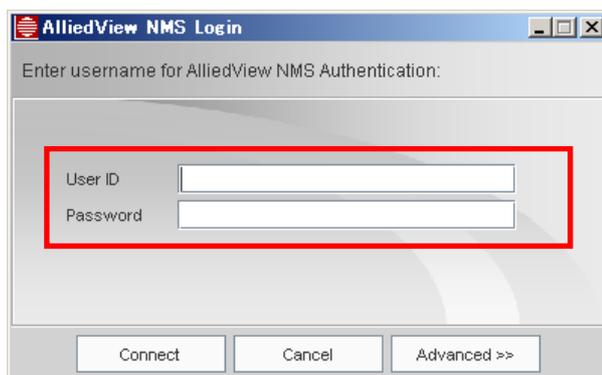
下記の画面が表示されたら、「Application Client (Web Start)」の「Launch」をクリックします。



(2) アカウント情報を入力します。デフォルト値は以下の通りです。

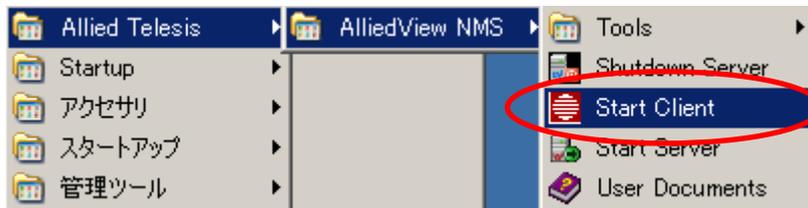
User ID: root
Password: public

アカウント情報入力後、「Connect」をクリックするとクライアントツールが起動します。



2.2.2 スタートメニューからの起動

(1) 「スタート」→「プログラム」→「Allied Telesis」→「AlliedView NMS」→「Start Client」を選択します。

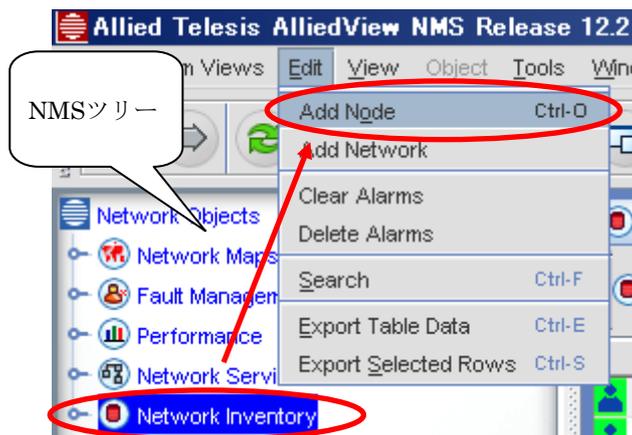


(2) Web ブラウザーからの起動と同様に、ログインダイアログが表示されます。アカウント情報を入力後「Connect」をクリックすると、クライアントツールが起動します。

2.3 ノードの手動追加

ディスカバリー機能を使用したノードの自動探索 / 追加に加えて、手動でのノード追加も可能です。

(1) AlliedView NMS の画面左側の NMS ツリーで「Network Inventory」を選択した状態で、メニューから「Edit」→「Add Node」を選択します。



- (2) 下記のダイアログが表示されたら、追加するノードの IP アドレス、SNMP 関連パラメーターを入力し、「Add Node」をクリックします。

Add Node

SNMP

Discovery Configurations

Node Type IPV4 IPV6

IP Address / Host Name

Netmask . . .

Discover even if node is not reachable?

Discover all devices in parent network?

Override Seed file filters?

Update configurations in Seed file?

SNMP Configurations

Community

SNMP Agent Port

SNMP V3 Enabled?

User Name

Context Name

Process Add Node request in the background

Add Node

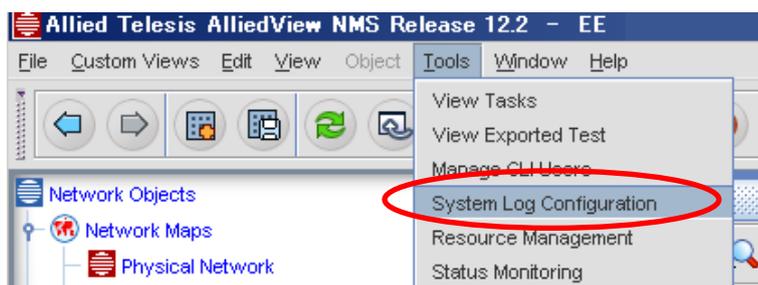
ダイアログの下部に「Successfully Added to Database」と表示されたら、ノードの登録は完了です。「Close」をクリックしてダイアログを閉じます。

2.4 Syslogサーバー機能

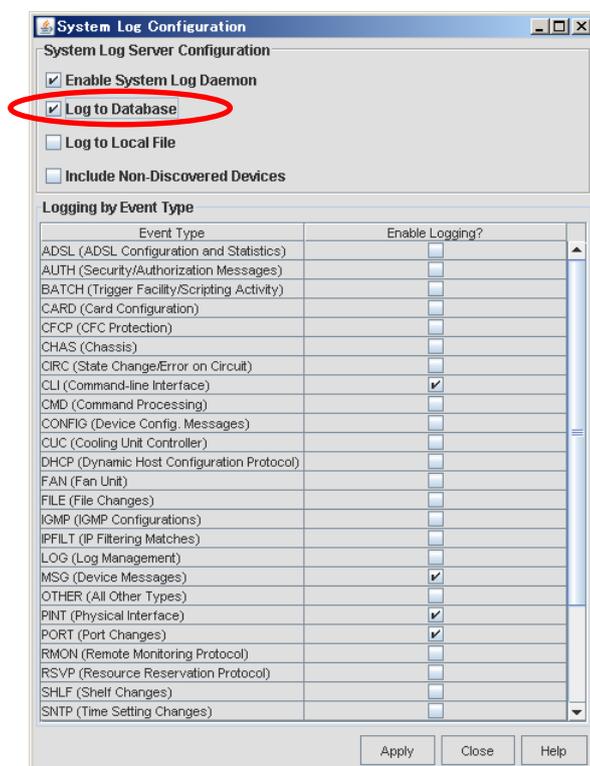
Syslog サーバーの設定を行うことで、監視対象から送信される Syslog を受信できるようになります。また、イベントフィルターの設定を行うことで、特定の Syslog メッセージを受信した際にメール送信などのアクションを起動することができます。

2.4.1 Syslogサーバーの設定

- (1) メニューから「Tools」→「System Log Configuration」を選択します。

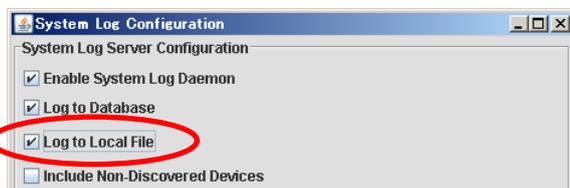


- (2) 受信した Syslog を AlliedView NMS 上で表示するには、「Log to Database」にチェックを入れます。また、デフォルトでは受信する Event Type を制限しているため、必要に応じて「Logging by Event Type」で受信したい Event Type にチェックを入れます。チェックを入れた後、「Apply」をクリックして設定を反映します。

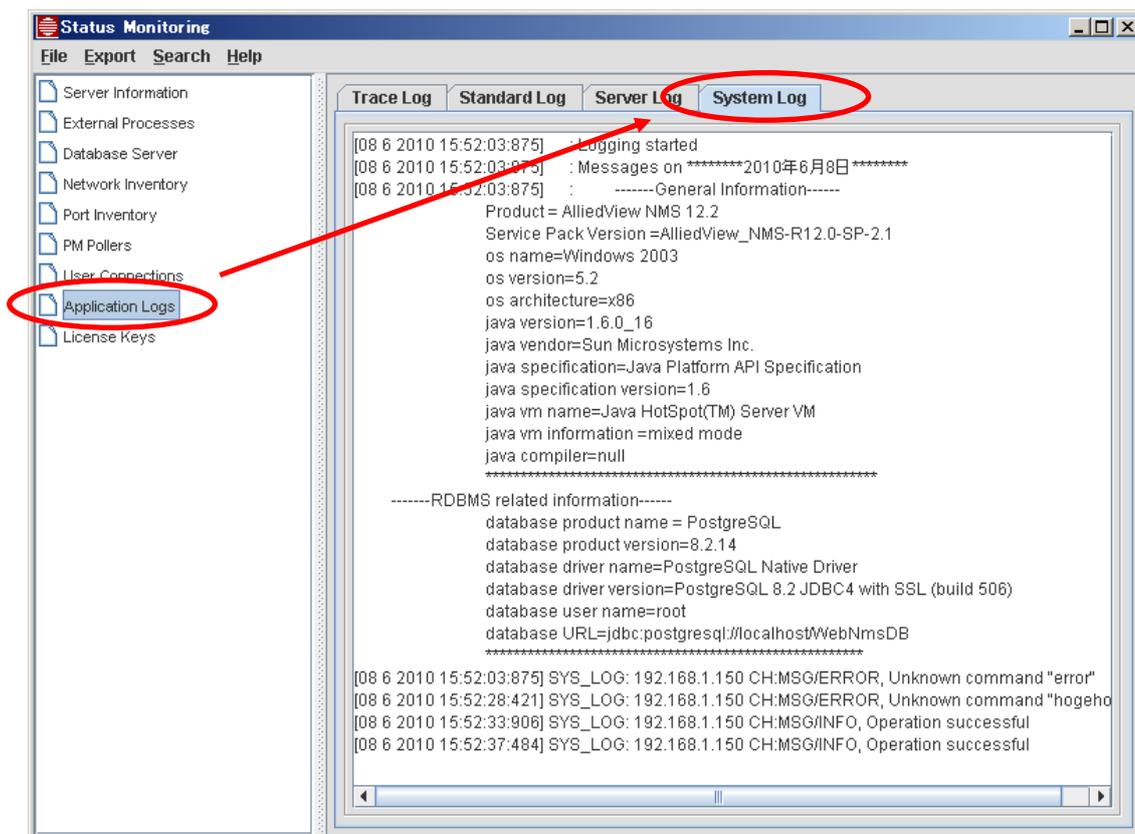


※ 「Include Non-Discovered Devices」にチェックを入れると、任意のノードからの Syslog を受け付けません。

(3) 「Log to Local File」にチェックを入れると、受信した Syslog 情報をローカルファイルに出力します。



ローカルファイルに保存された Syslog 情報は、メニューから「Tools」→「Status Monitoring」を選択して表示される画面上で、「Application Logs」→「System Log」タブを選択して参照できます。



※ Syslog 情報は、[AlliedView NMS インストールディレクトリ]¥logs 内の「syslog.txt」で直接参照することも可能です。

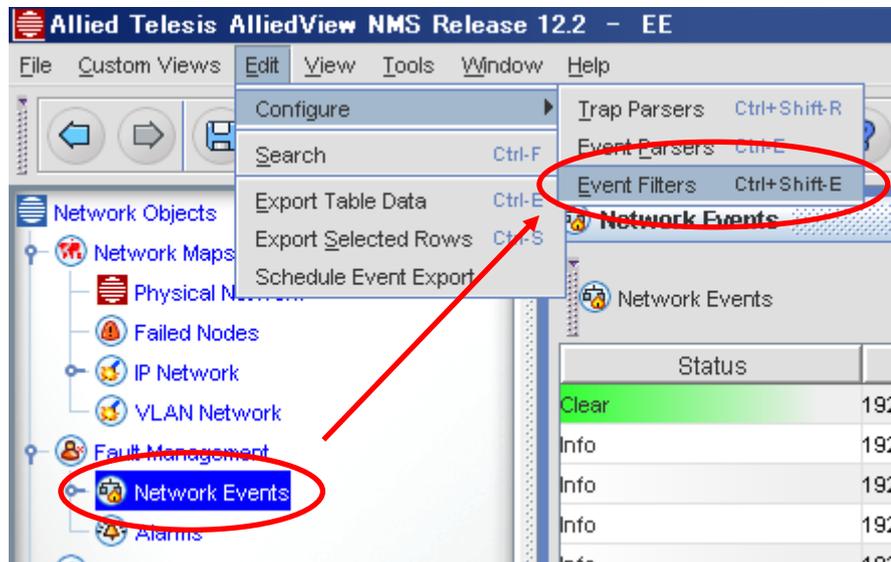
2.4.2 Syslog をトリガーにしたアクションの実行

特定の Syslog メッセージを受信した際に指定したアクションを実行することができます。ここでは一例として、メール送信の実行を紹介します。

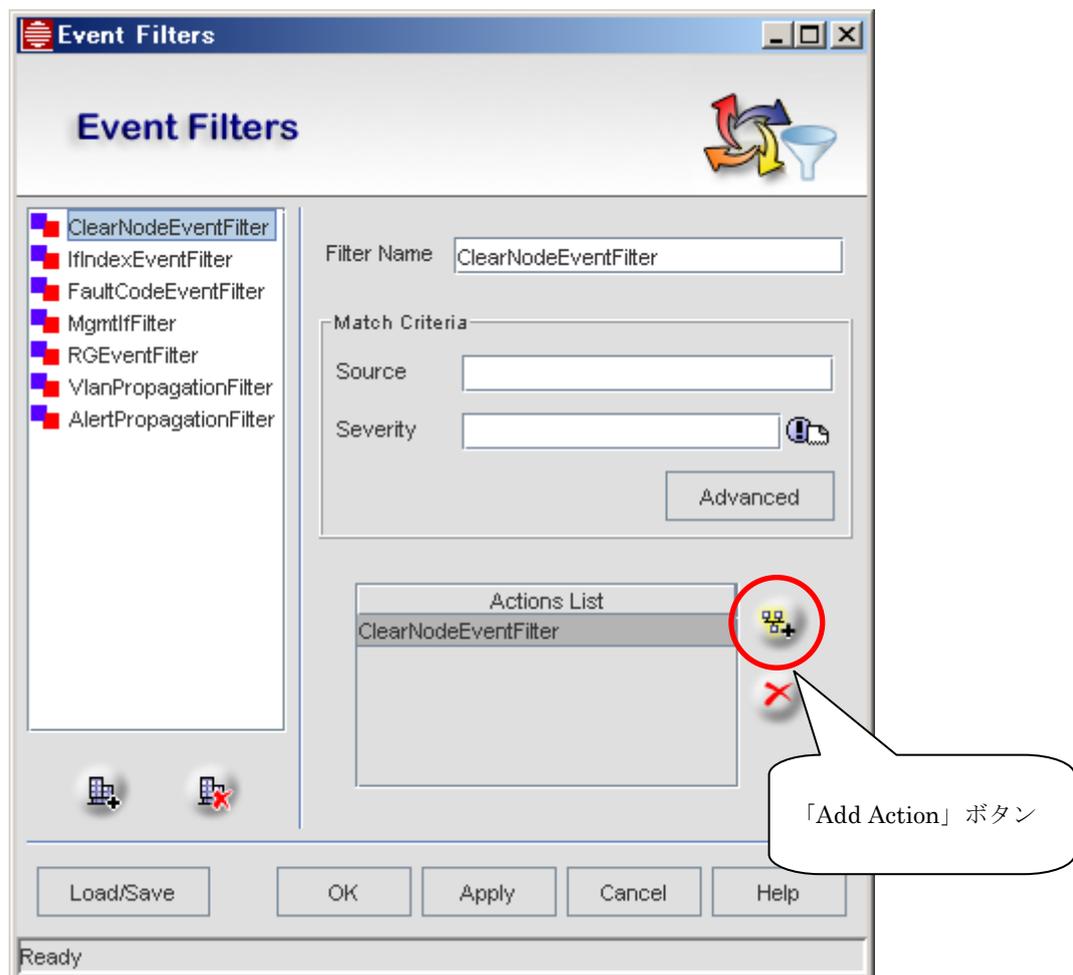
【Syslog の内容】

Priority	<=4
Facility	=20
メッセージの内容	「IPFILT」を含む
送信元 IP アドレス	192.168.5.45～192.168.5.48 以外

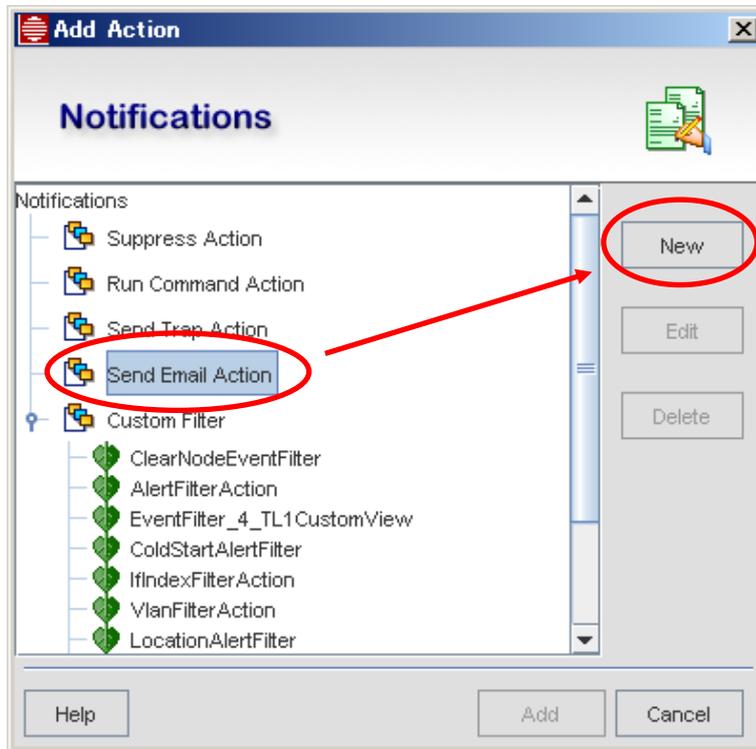
- (1) NMS ツリーで「Fault Management」内の「Network Events」を選択した状態で、メニューから「Edit」→「Configure」→「Event Filters」を選択します。



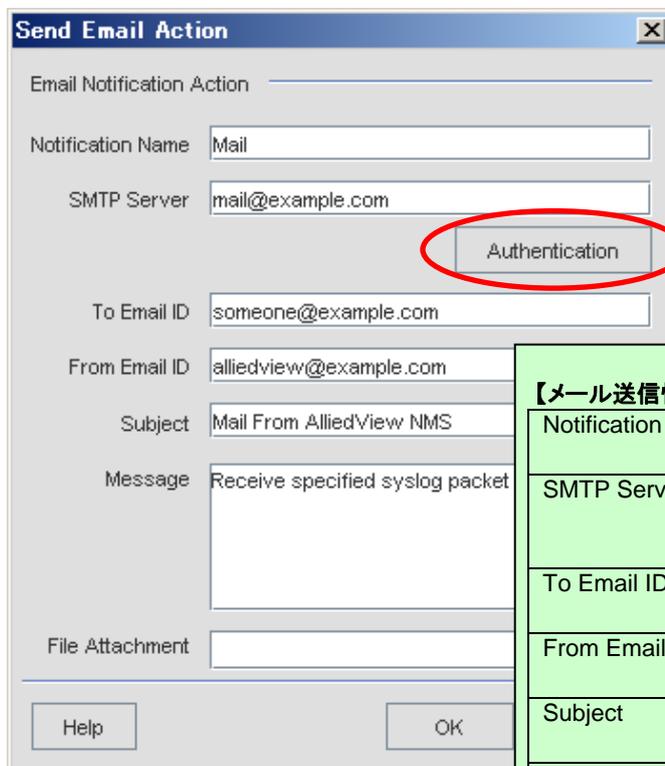
- (2) 「Add Action」ボタンをクリックします。



(3) 「Send Email Action」を選択し、「New」をクリックします。

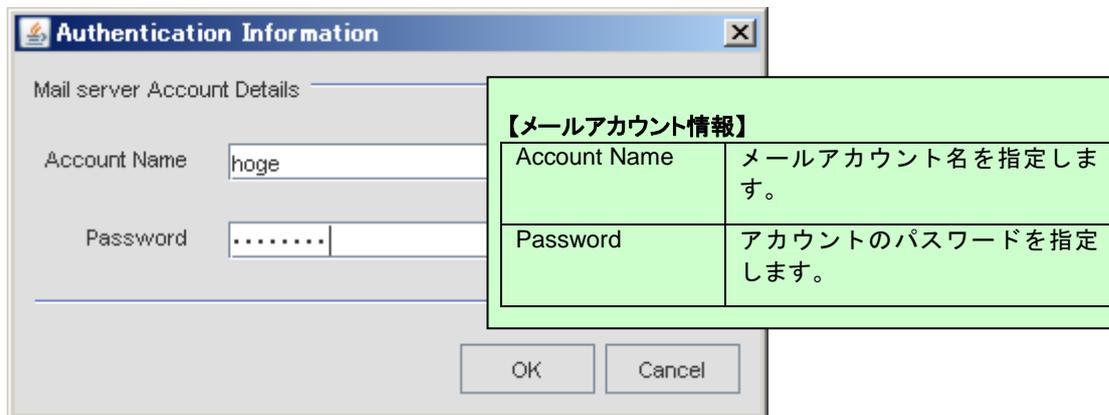


(4) メール送信に必要な情報を入力し、「Authentication」をクリックします。

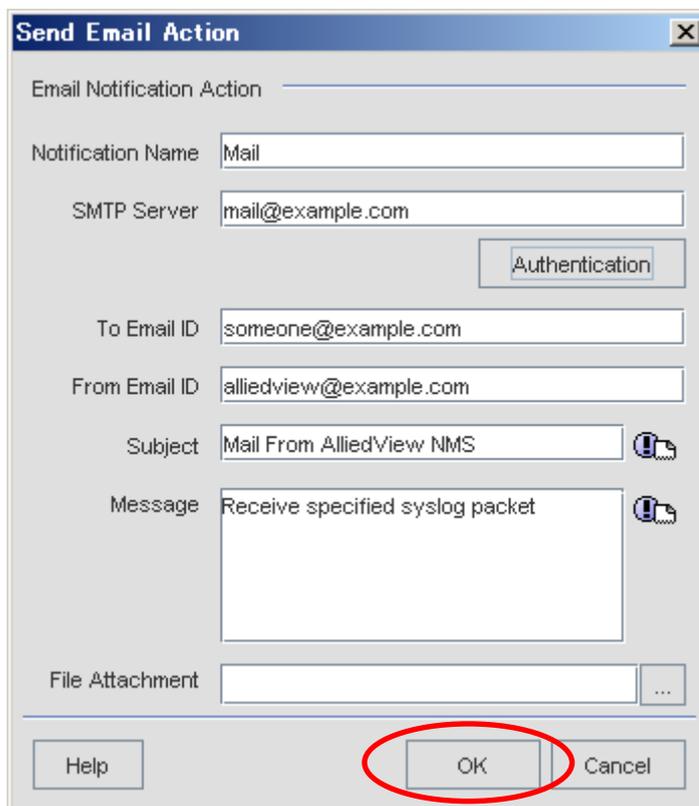


【メール送信情報】	
Notification Name	アクション名を指定します。
SMTP Server	SMTP サーバーの IP アドレス、またはホスト名を指定します。
To Email ID	送信先メールアドレスを指定します。
From Email ID	送信元メールアドレスを指定します。
Subject	件名を指定します。
Message	メール本文を指定します。

(5) SMTP サーバーで使用するアカウント情報を入力し、「OK」をクリックします。



(6) 「OK」をクリックし、ダイアログを閉じます。



- (7) 「Event Filters」画面の「Add Filter」ボタンをクリックし、フィルター情報を入力した後、「Advanced」をクリックします。

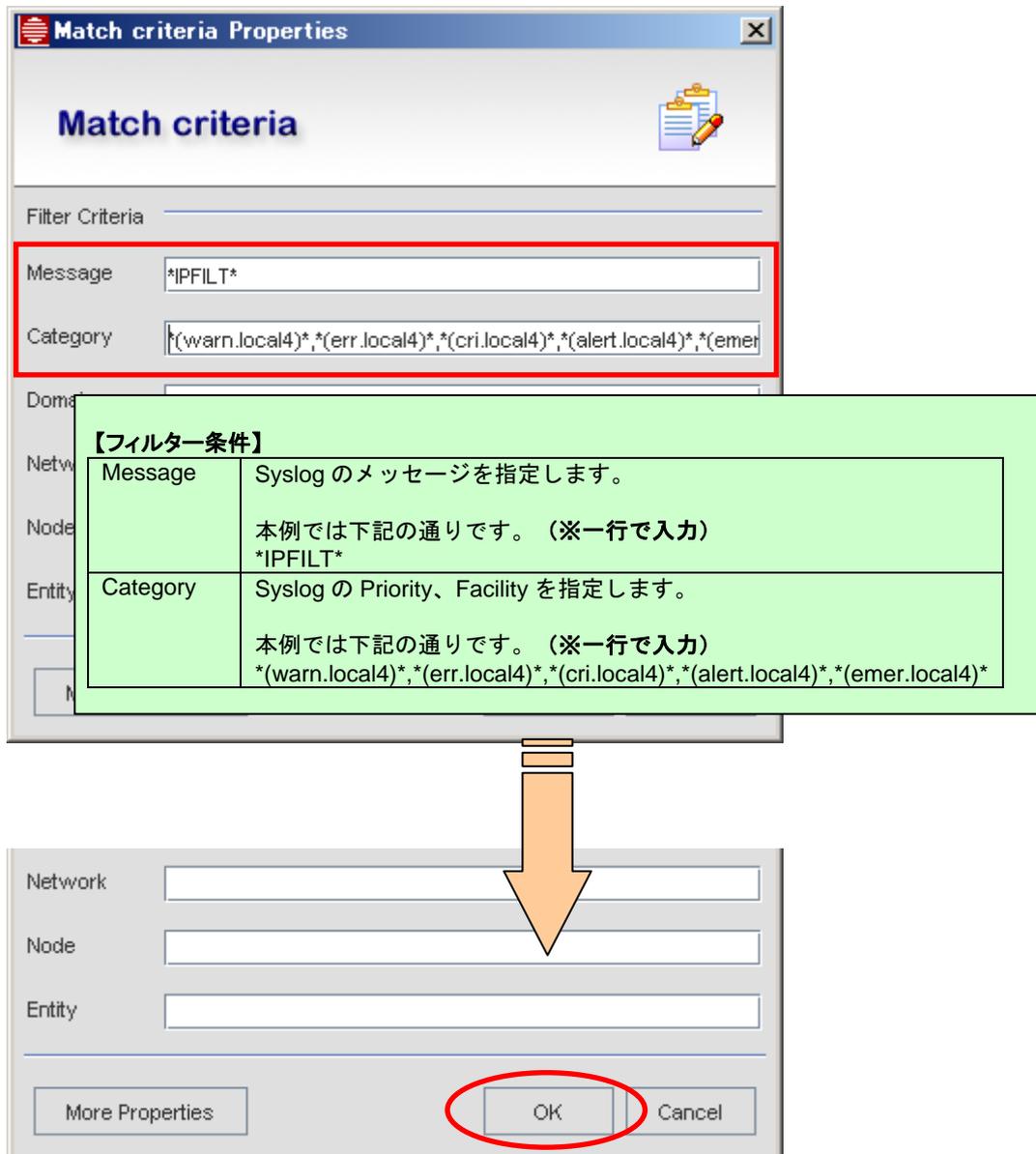
※ 「Event Filters」画面を閉じてしまった場合は、NMS ツリーで「Fault Management」内の「Network Events」を選択した状態で、メニューから「Edit」→「Configure」→「Event Filters」から再表示します。

The screenshot shows the 'Event Filters' configuration window. On the left, there is a list of filter types including 'ClearNodeEventFilter', 'IfIndexEventFilter', 'FaultCodeEventFilter', 'MgmtIfFilter', 'RCEventFilter', 'VlanPropagationFilter', 'AlertPropagationFilter', and 'New_Filter0'. The 'Add Filter' button (represented by a plus sign and a filter icon) is circled in red. A callout box points to this button with the text 「Add Filter」 ボタン. The main configuration area contains fields for 'Filter Name' (set to 'Filter1'), 'Match Criteria', 'Source' (set to '192.168.5.45,!192.168.5.46,!192.168.5.48'), and 'Severity'. A red box highlights the 'Filter Name' and 'Source' fields. Below the configuration area, there are buttons for 'Load', 'Apply', 'Cancel', and 'Help'. The 'Advanced' button is circled in red in the second screenshot, which is reached by clicking the 'Add Filter' button. A green callout box titled 「フィルター情報」 provides instructions for the filter name and source IP addresses.

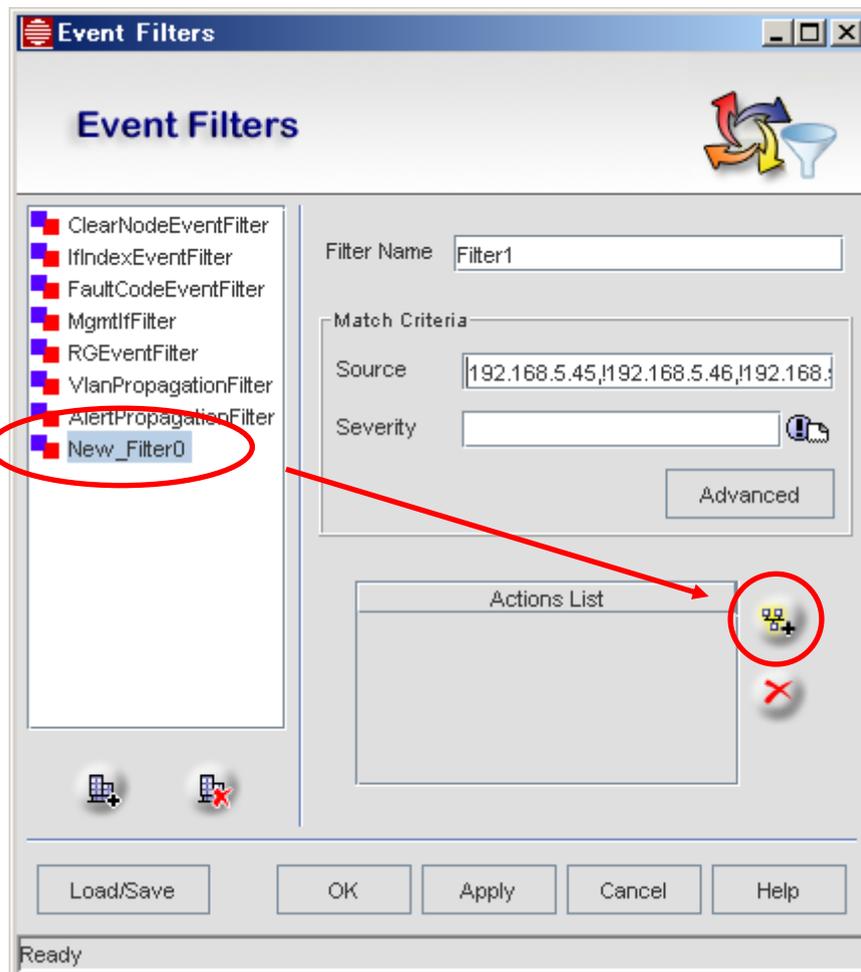
【フィルター情報】

Filter Name	フィルター名を指定します。
Source	送信元 IP アドレスを指定します。 本例では下記の通りです。（※一行で入力） 192.168.5.45,!192.168.5.46,!192.168.5.47,!192.168.5.48

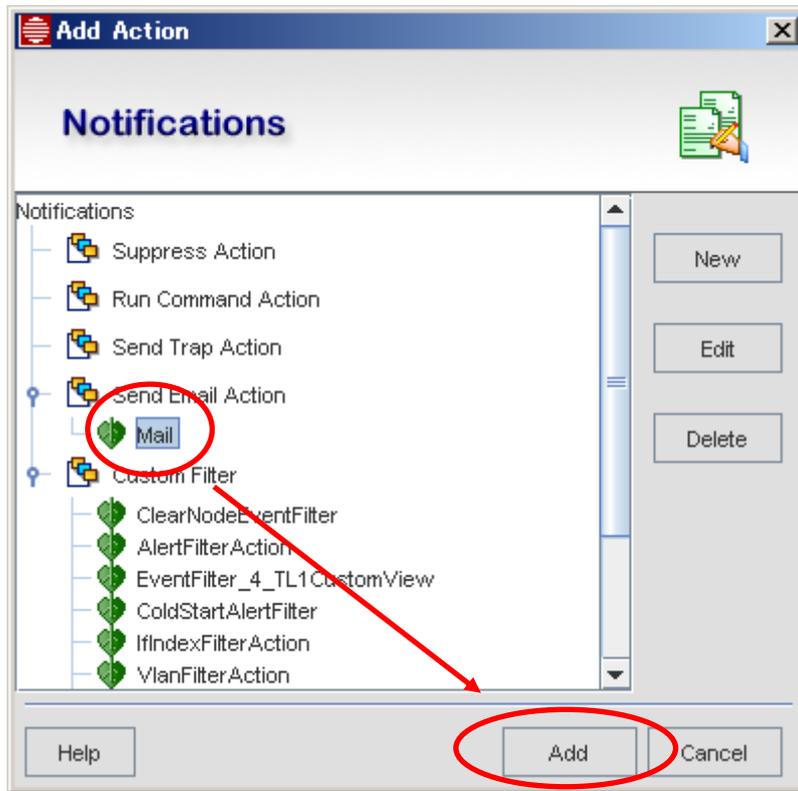
(8) フィルター条件にマッチするように各項目を入力し、「OK」をクリックします。



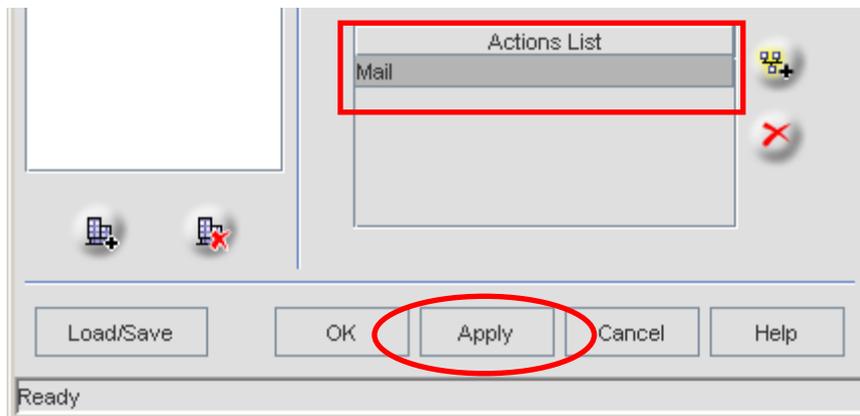
(9) 作成したフィルターを選択した状態で、「Add Action」ボタンをクリックします。



(10) 作成したメール送信アクションを選択し、「Add」をクリックします。



(11) 「Actions List」にアクションが追加されていることを確認し、「Apply」をクリックします。



以上で設定は完了です。

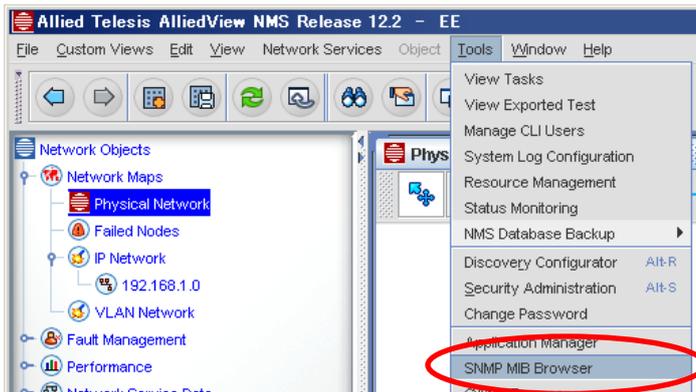
2.5 SNMPマネージャー機能

SNMPを使用したネットワーク管理の方法について説明します。

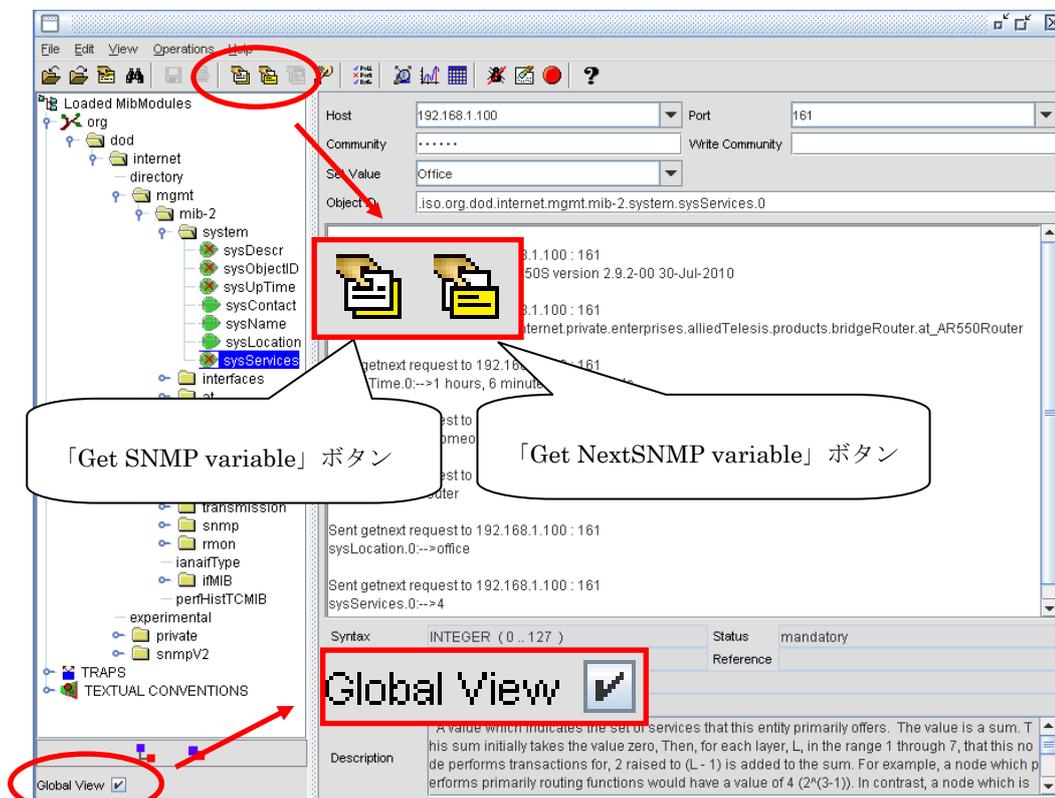
2.5.1 SNMP MIBブラウザー

SNMP MIBブラウザーでMIBの値が取得できます。

- (1) メニューから「Tools」→「SNMP MIB Browser」を選択します。

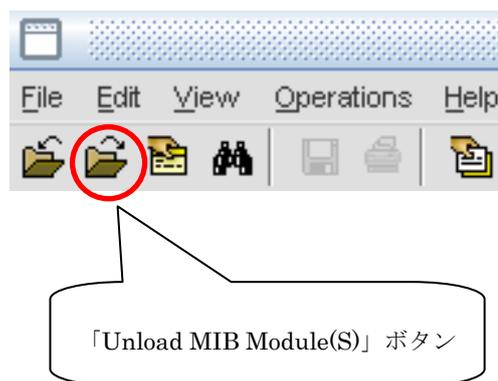
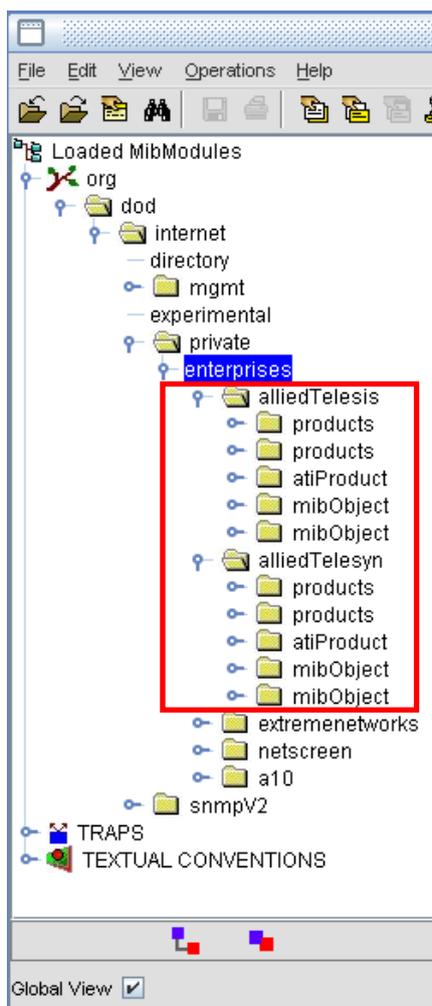


- (2) 「Global View」にチェックを入れ、「Host」に対象ノードの IP アドレスまたはホスト名、「Port」に UDP ポート番号 (デフォルト 161)、「Community」に SNMP コミュニティー名を入力します。画面左の MIB ツリーから値を取得するオブジェクト ID を選択し、「Get SNMP variable」ボタン (または「Get Next SNMP variable」ボタン) をクリックします。



- ※ MIB ツリー上には同一のオブジェクト ID で「alliedTelesis」、「alliedTelesyn」の両方の MIB が表示されますが、どちらか一方に関連した MIB に対してアンロードの操作をすることで、もう一方の情報のみ表示させることができます。
- 特定の MIB をアンロードするには、MIB ツリーから該当のオブジェクト ID を選択し、「Global View」のチェックを外した状態で「Unload MIB Module(S)」ボタンをクリックします。

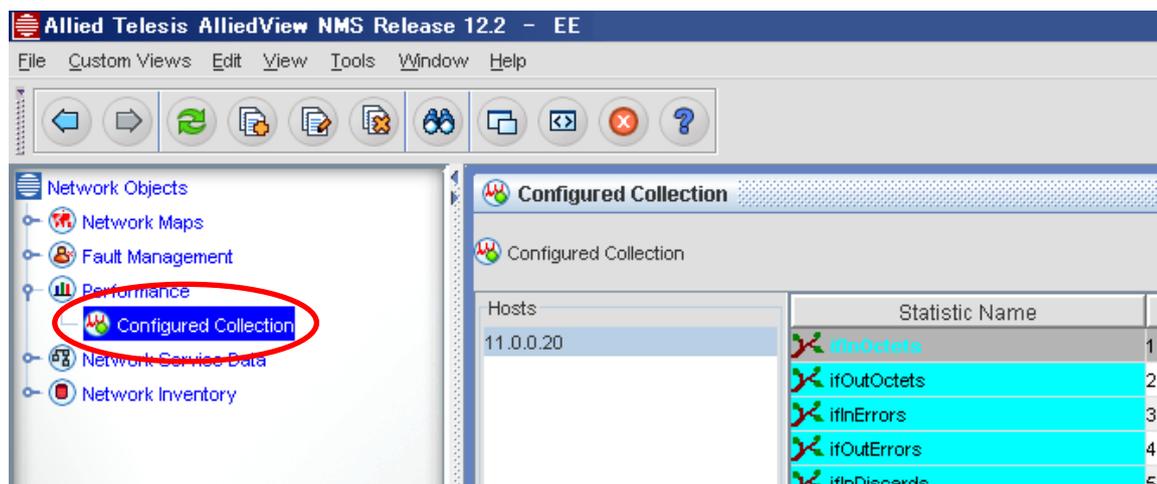
注意: 「Global View」にチェックが入っている状態でアンロードの操作を行うと、すべての MIB が対象になります。



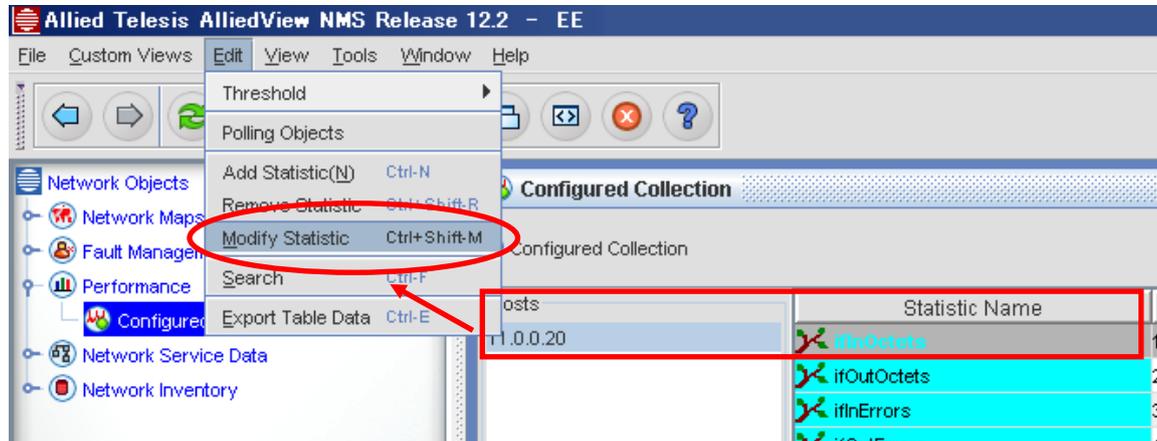
2.5.2 統計情報の取得とグラフ表示

対象ノードの統計情報を SNMP で定期的に取り得し、結果をグラフで表示することができます。
ここでは例として、ノード「11.0.0.20」の ifInOctets を 300 秒周期で取得する設定を紹介します。

- (1) NMS ツリーから「Performance」→「Configured Collection」を選択します。



- (2) 「Hosts」からノード「11.0.0.20」を、「Statistics Name」から「ifInOctets」を選択した状態で、メニューから「Edit」→「Modify Statistic」を選択します。



- (3) 「Active」にチェックを入れ、「Modify」をクリックします。

Modify Polled Data

Polled Data Details

Name: ifInOctets

Snmp Version: v2

Read Community: public

User Name:

OID: .1.3.6.1.2.1.2.2.1.10

Agent: 11.0.0.20

DNS Name: 11.0.0.20

Active:

Period: 300

Threshold:

Threshold List:

Failure Threshold: 1

Is Multiple:

Policy Name: CentreCOMIF

Snmp Port: 161

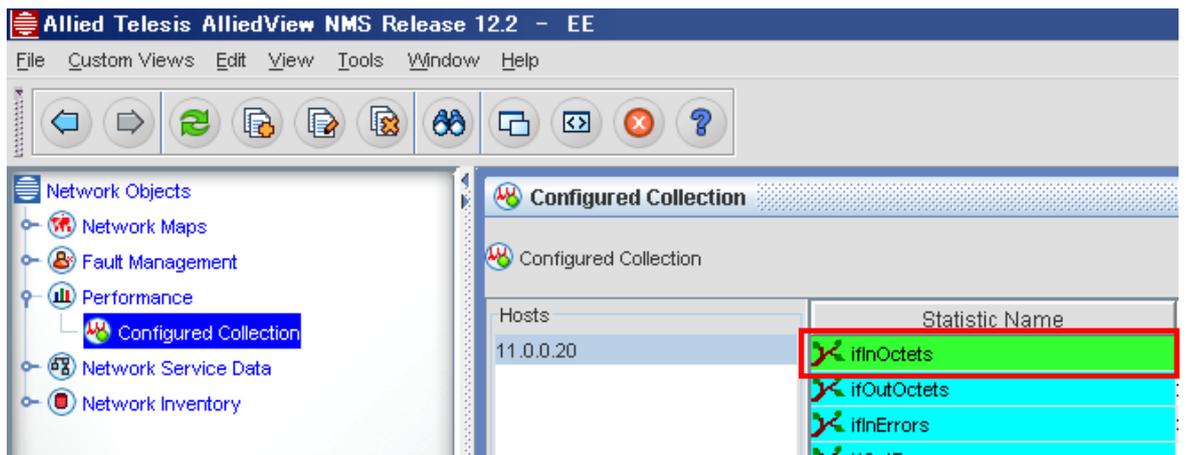
Advanced

<< Previous Next >>

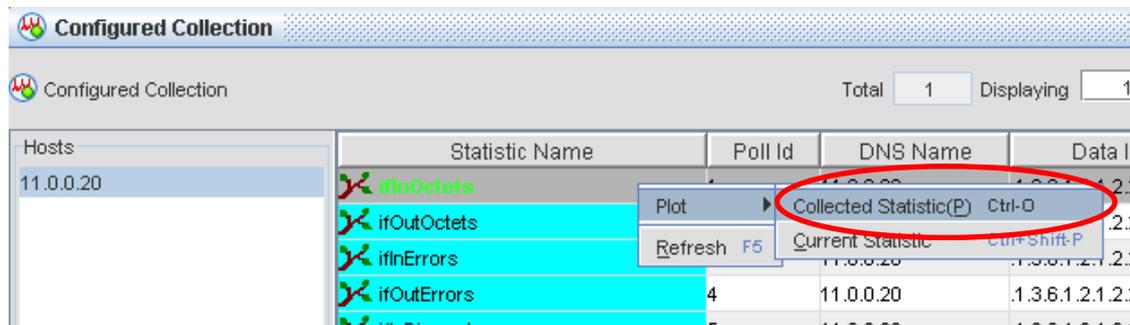
Modify Cancel Help

※取得間隔を調整する際は、「Period」パラメーター（単位：秒）を変更します。

- (4) 定期取得が設定されたオブジェクト ID(下記の例では「ifInOctets」)は、緑色に変わります。

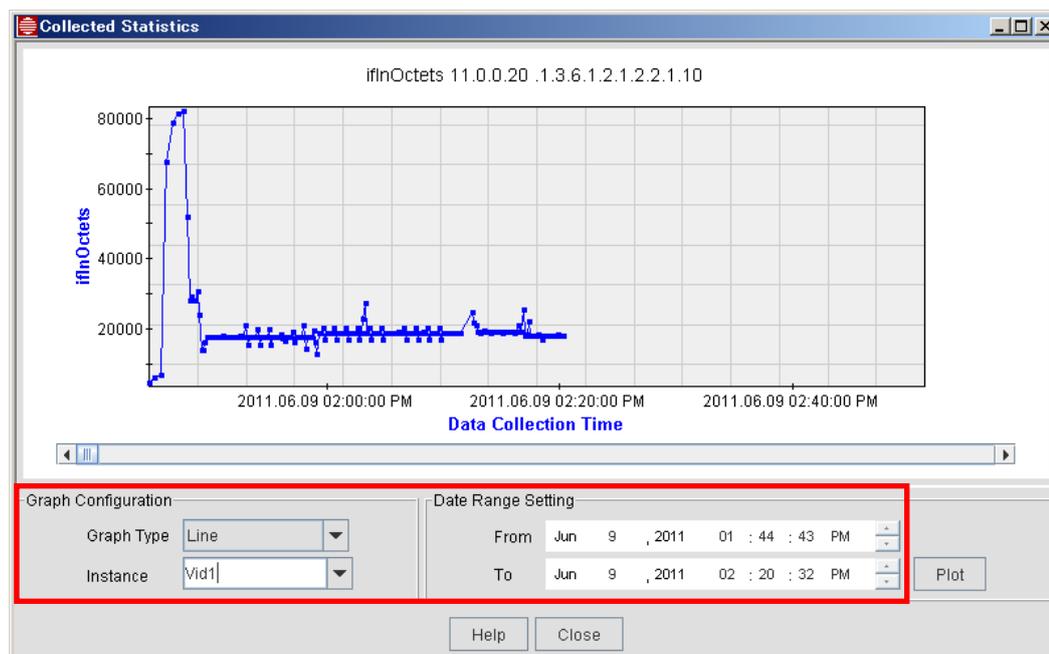


- (5) 定期取得した値をグラフ表示します。
「Host」からノード「11.0.0.20」を、「Statistics Name」から「ifInOctets」を選択し、右クリック→「Plot」→「Collected Statistic」を選択します。



※ 右クリック→「Current Statistic」を選択すると、表示操作の実行時を起点とした統計情報のプロット値を、リアルタイムにグラフ表示します。

- (6) 取得した値を確認したいインターフェース、日時を指定して「Plot」をクリックするとグラフが表示されます。

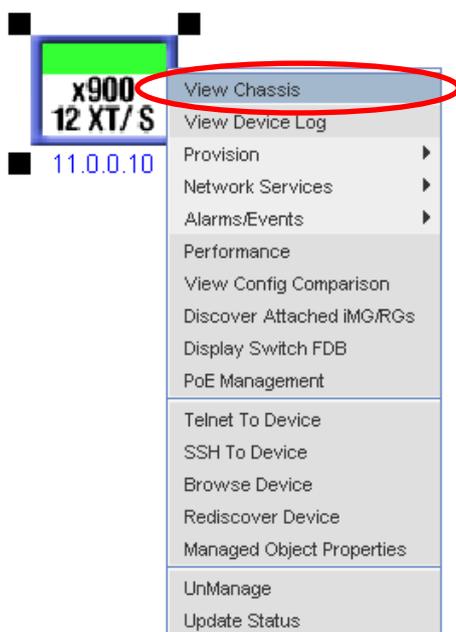


2.6 シャーシビュー機能

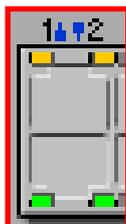
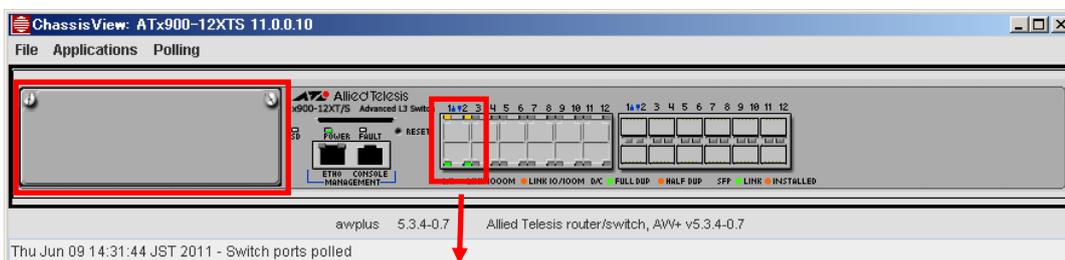
シャーシビュー機能を使用することで、ノードのリンク状態やVLANの設定を視覚的に確認することができます。また、VLAN インターフェースの作成 / 削除 / 変更や、各ポートのタグ設定(タグなし / タグ付き)が可能です。

- (1) マップ画面で対象ノードを右クリック→「View Chassis」を選択します。(または対象ノードをダブルクリック)

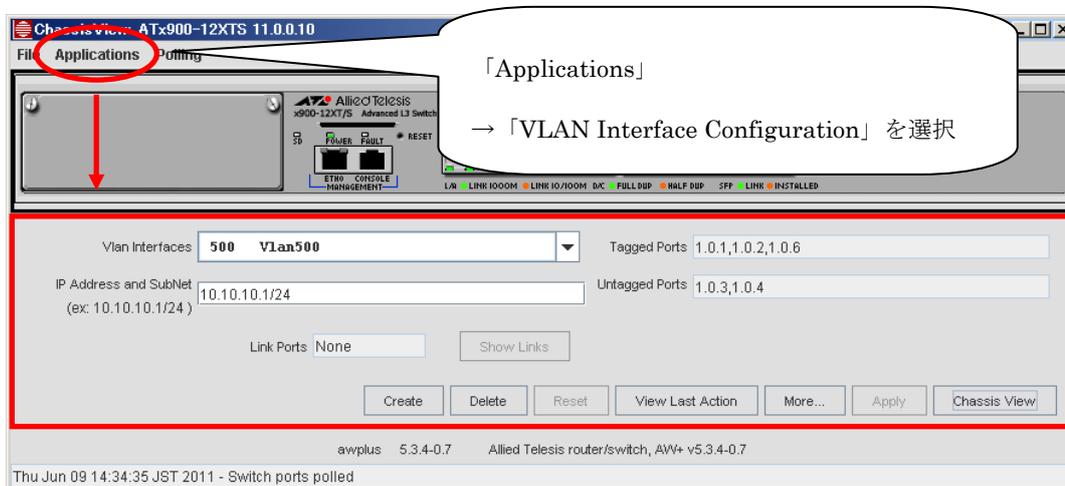
※ マップについては、「[3 ネットワークマップ機能](#)」を参照してください。



- (2) 選択した機器の状態を示す画面が表示されます。
対象ノードの Port1、Port2 のみがリンクアップ状態であること、拡張モジュールは未使用であることなどが確認できます。



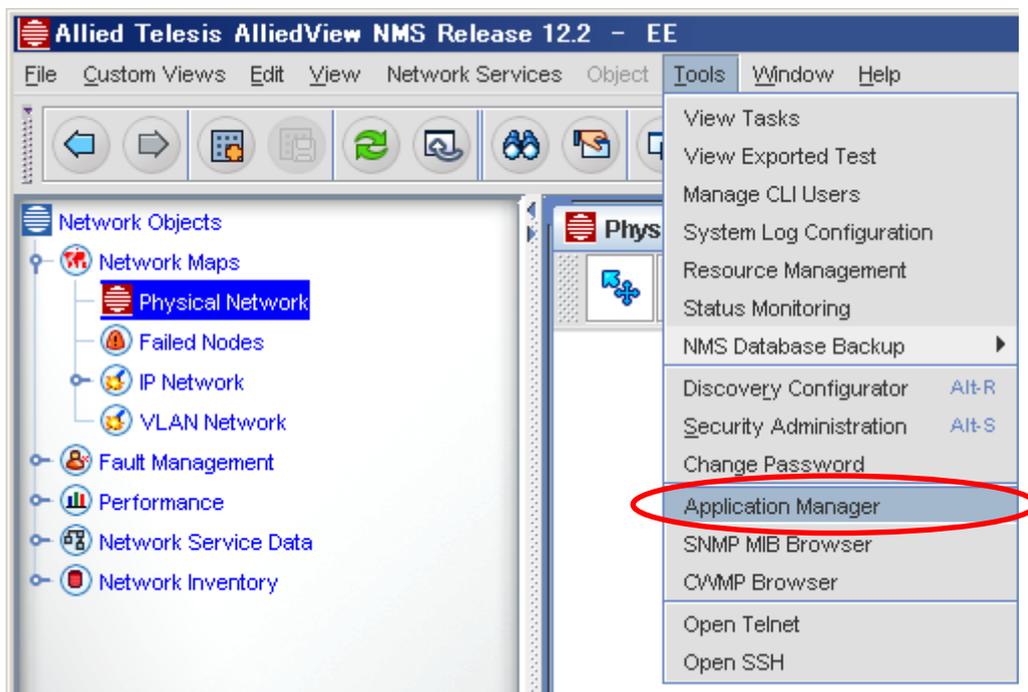
- (3) メニューから「Applications」→「VLAN Interface Configuration」を選択することで、VLAN 情報の確認、各種設定を行うことができます。



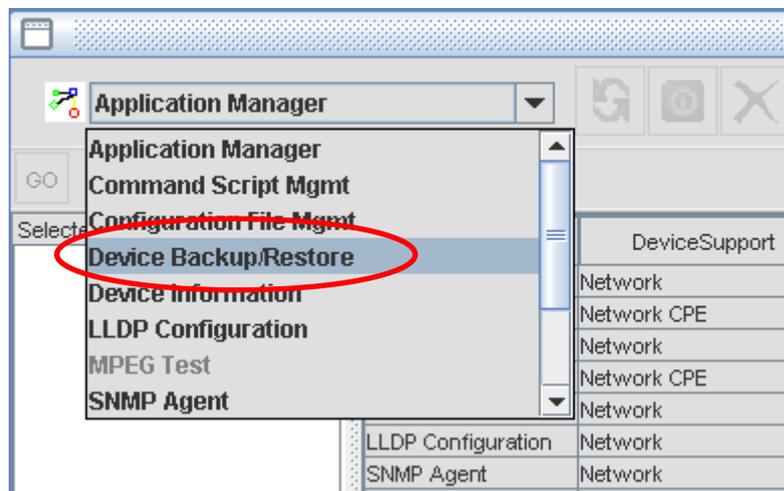
2.7 コンフィグレーションファイル管理機能

AlliedView NMS からネットワーク機器のコンフィグレーションのバックアップ / リストアができます。

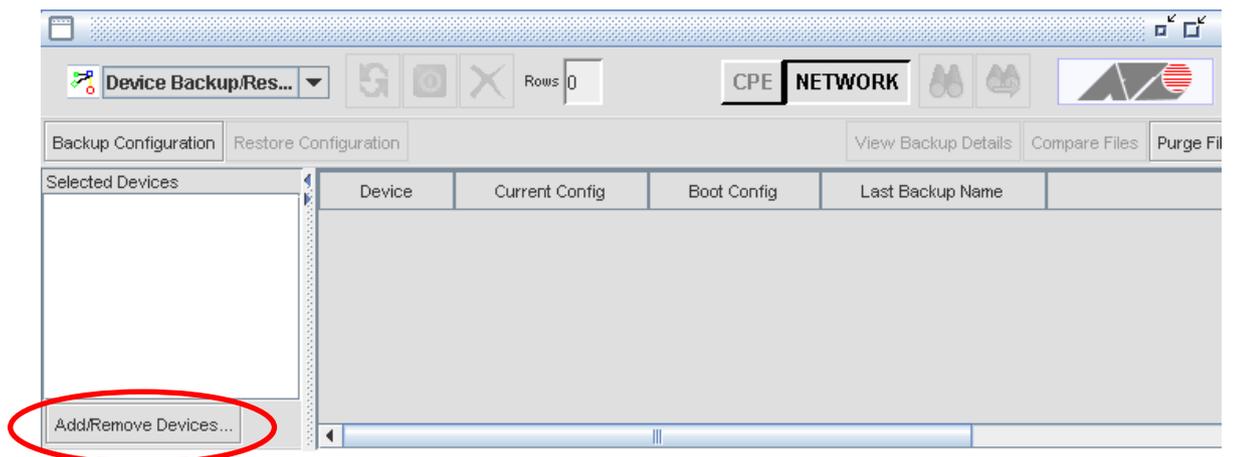
- (1) メニューから「Tools」→「Application Manager」を選択します。



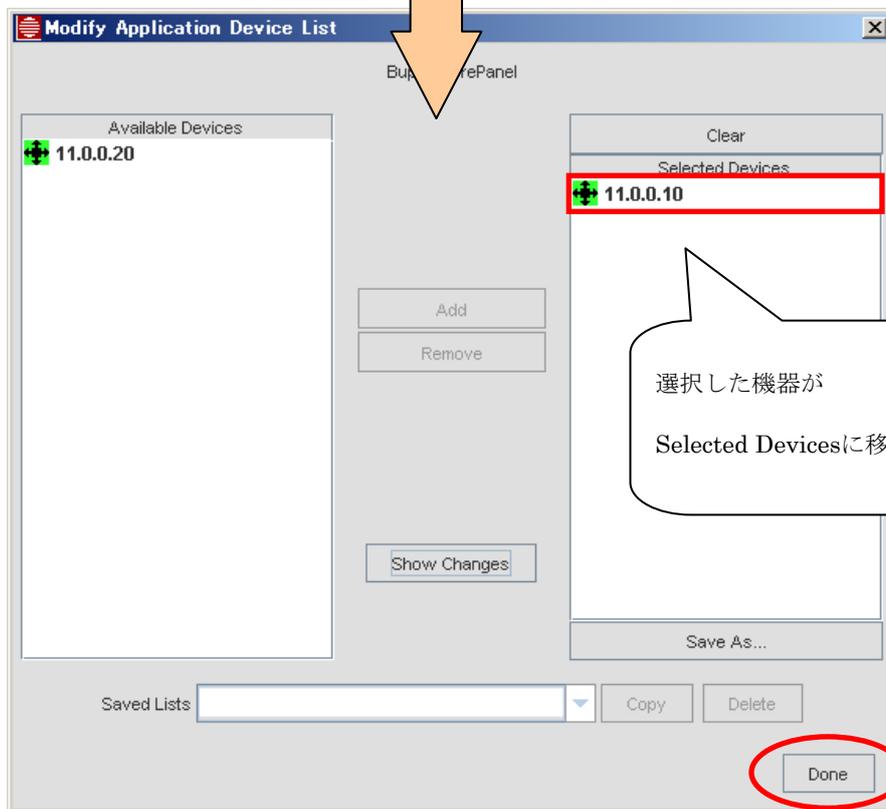
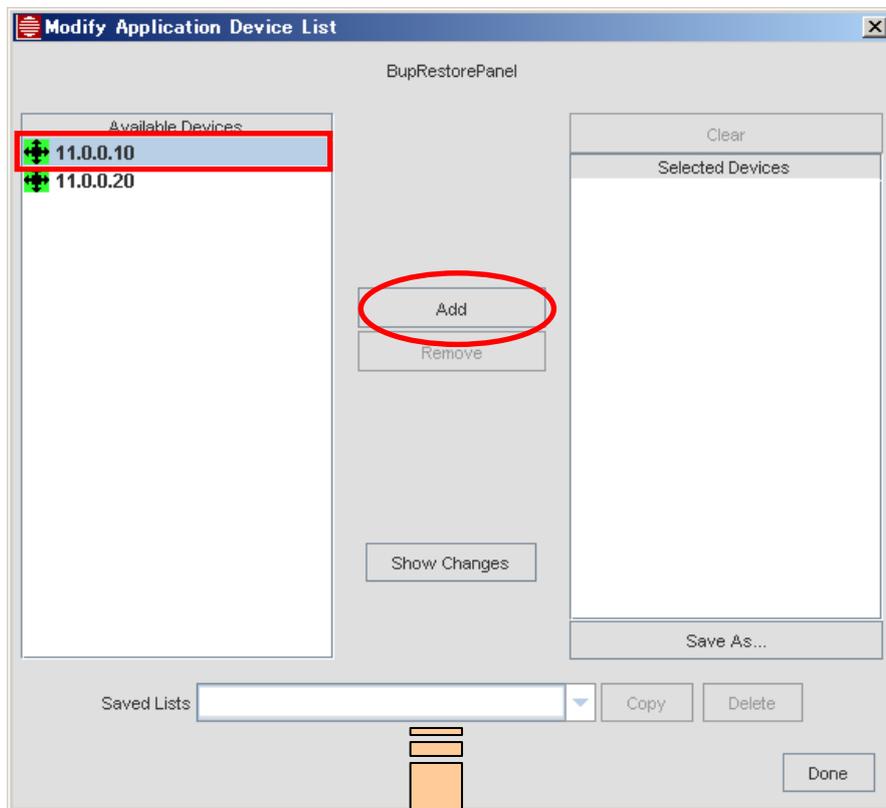
(2)メニューから、「Device Backup/Restore」を選択します。



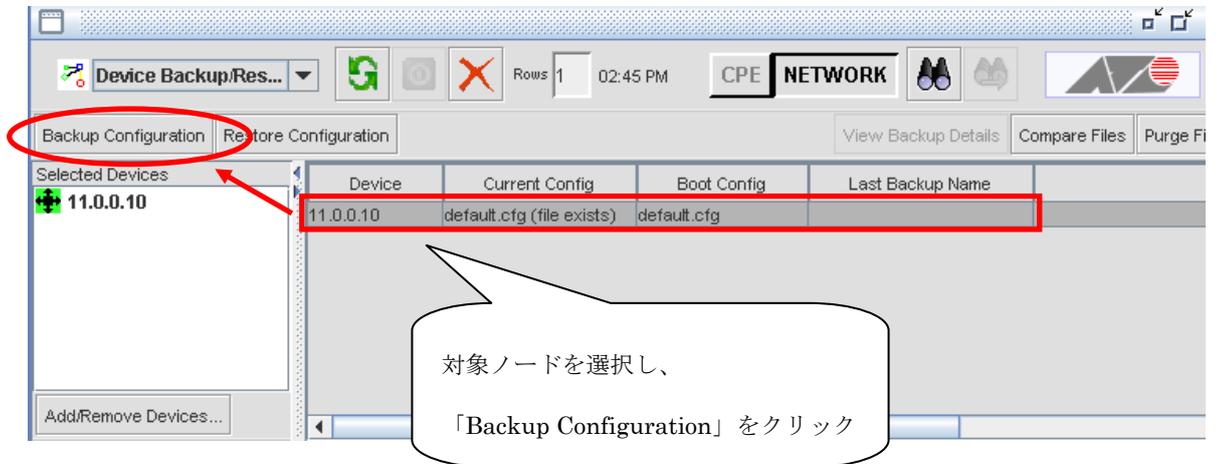
(3) 「Add/Remove Devices」をクリックします。



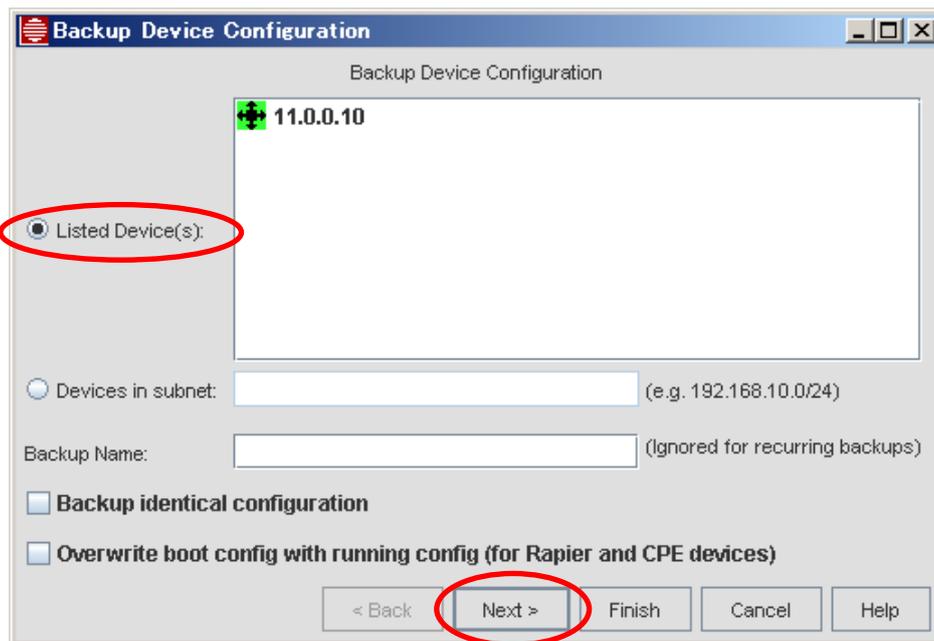
- (4) 対象ノードを選択し、「Add」をクリックします。選択したノードが「Available Devices」から「Selected Devices」に移行したことを確認後、「Done」をクリックします。



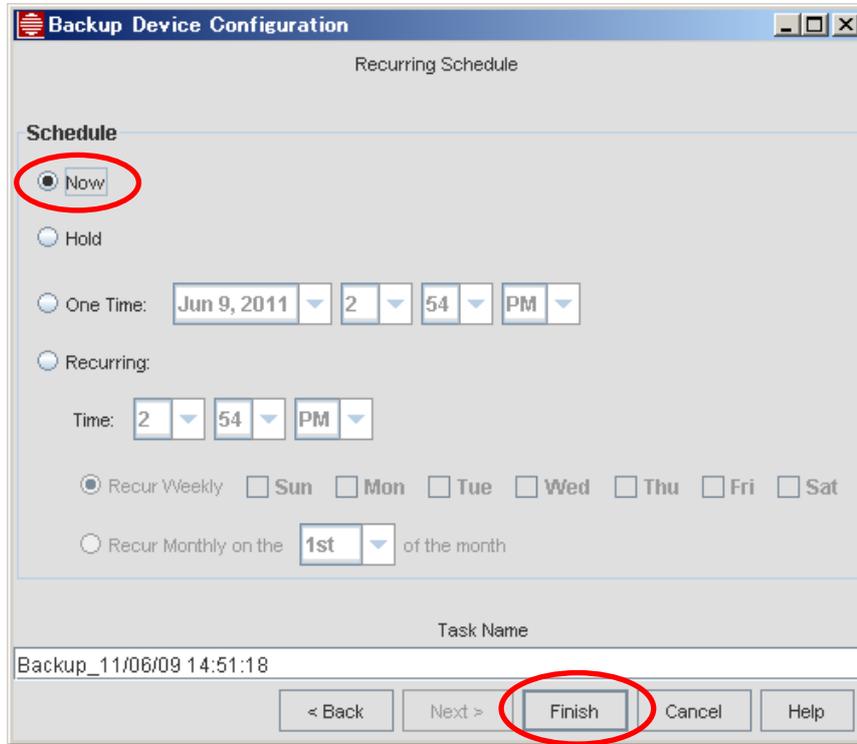
(5) 対象ノードを選択し、「Backup Configuration」をクリックします。



(6) 「Listed Device(s)」を選択し、「Next」をクリックします。

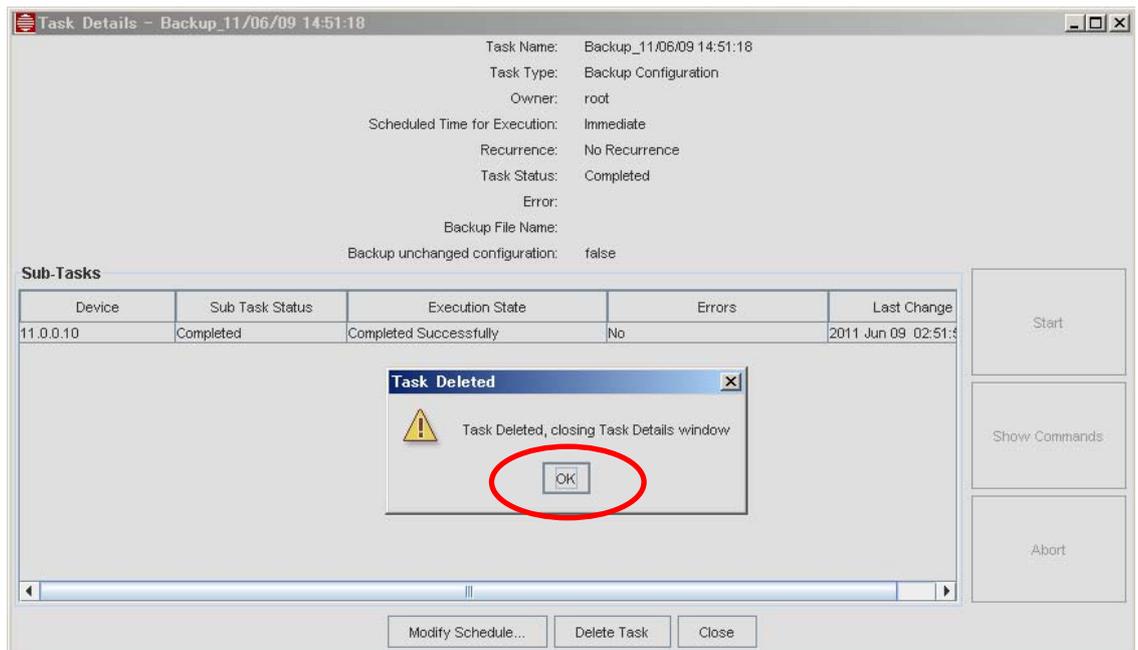


- (7) バックアップのスケジュールを設定します。バックアップを即時に行う場合は「Now」を選択し、「Finish」をクリックします。



※ バックアップファイルは[AlliedView インストールディレクトリー]¥backup¥[機器の IP アドレス]内に保存されます。

- (8) バックアップが完了すると詳細画面が表示されます。「OK」をクリックして閉じます。



3

ネットワークマップ機能

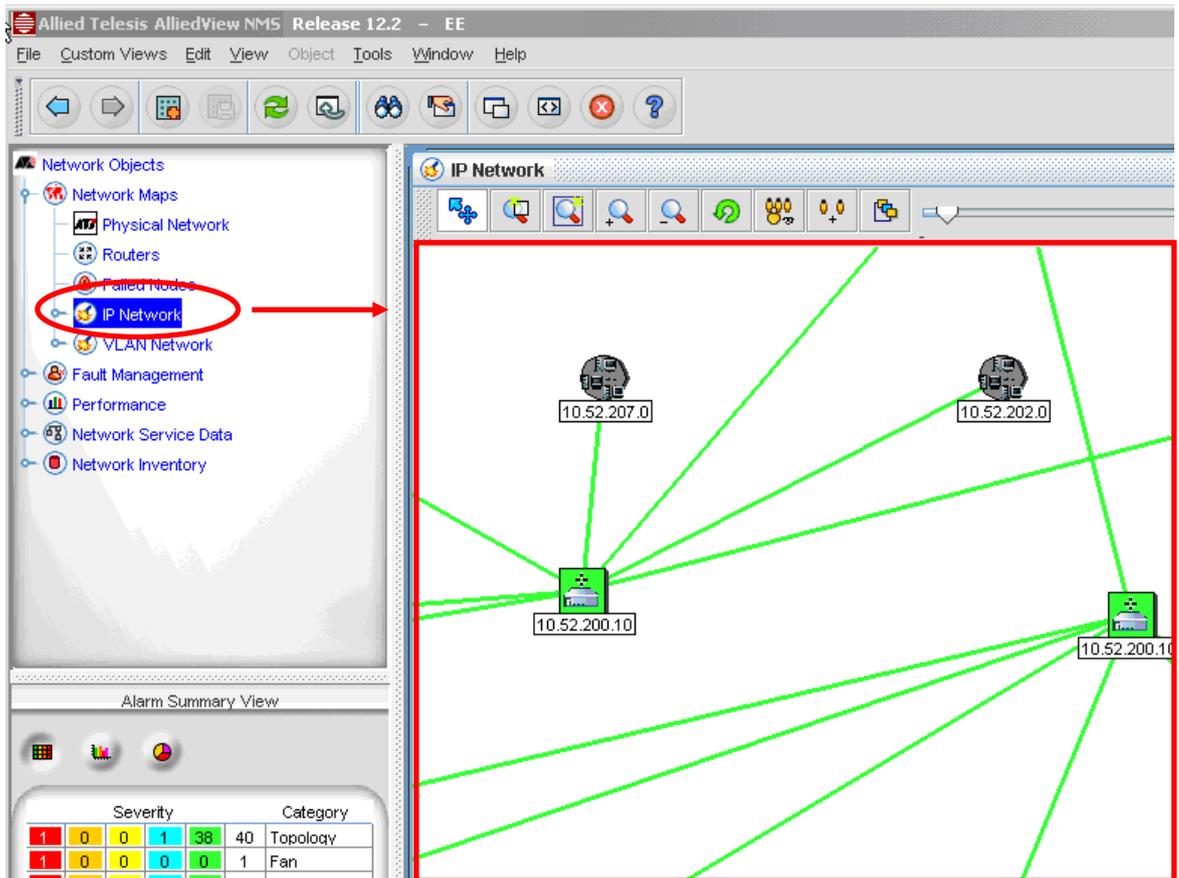
ネットワークマップ機能では、ネットワーク構成とネットワーク上のノード、それらの接続状態をマップ画面で視覚的に確認できます。

ディスカバリー機能によって追加されたノードと手動設定で追加されたノードは、自動的にマップに表示されます。

3.1 画面構成

3.1.1 マップ画面の表示

NMS ツリーで「Network Maps」内の各項目を選択すると、選択したマップが表示されます。



3.1.2 マップシンボル

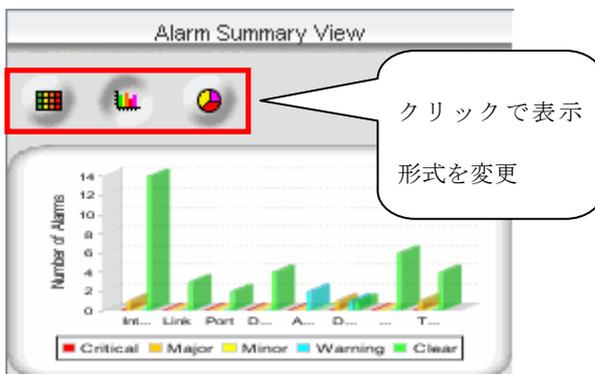
マップ上では、ネットワーク要素を示すため、以下のシンボルを使用します。

	IP ネットワークまたは VLAN を示します。
	ネットワーク上のルーターを示します。
	実線は 2 つのシンボル間の物理的 / 論理的接続を示します。
	ネットワーク上のノードを示します。
	VLAN インターフェースを示します。
	破線は 2 つの VLAN インターフェース間の論理的な接続を示します。

各ネットワーク要素の状態はシンボルの色で示されます。

赤		アラームが Critical の状態を示します。
オレンジ		アラームが Major の状態を示します。
黄		アラームが Minor の状態を示します。
ライトブルー		アラームが Warning の状態を示します。
緑		アラームが発生していない、正常な状態を示します。
グレー		NMS からの監視対象外であることを示します。

AlliedView NMS の画面左下に表示されるアラームカウントパネルで、発生しているアラーム数、カテゴリ、重要度が確認できます。アラームカウントパネルの表示形式は表、棒グラフ、円グラフから選択できます。



3.2 デフォルトマップ

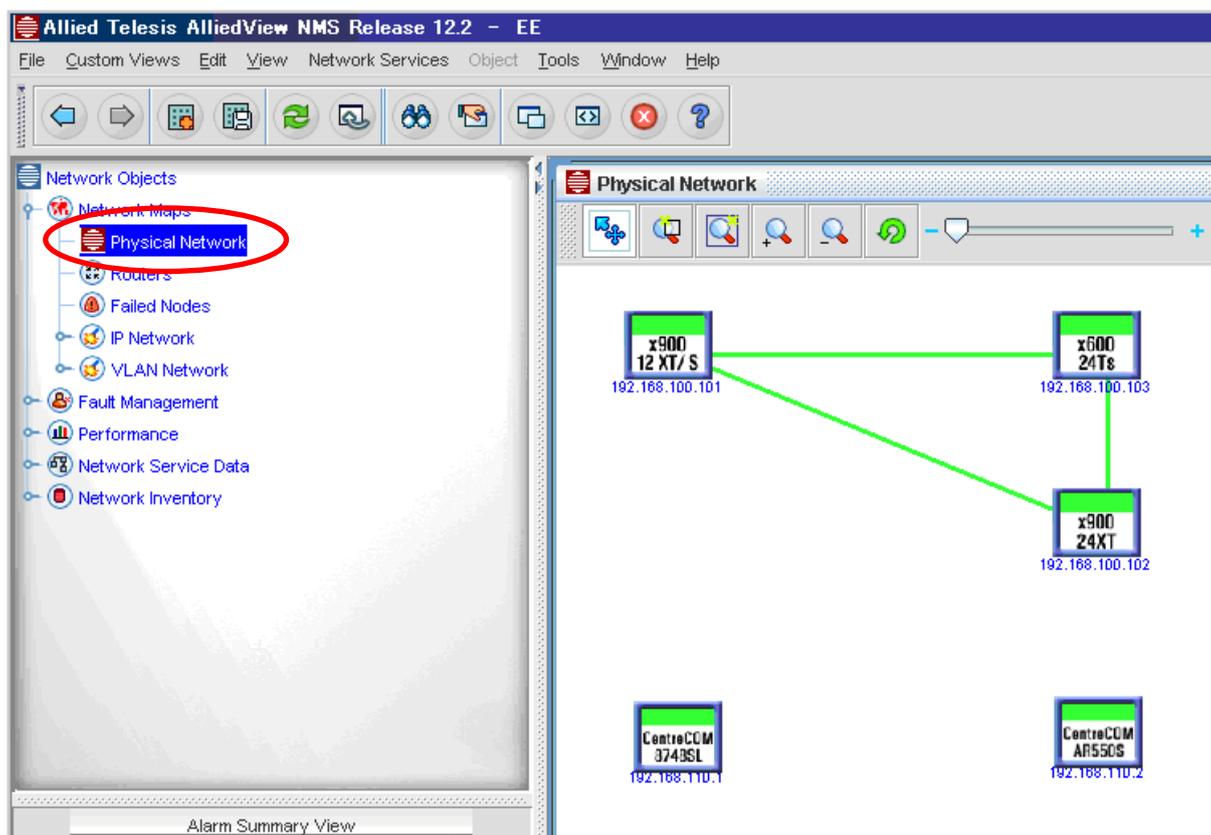
ネットワークマップには、デフォルトで以下のマップがあります。

- Physical Networkマップ … ネットワーク上の物理的な接続を示します。
- Routersマップ … ネットワーク上のルーターと、その接続状況を示します。
- Failed Nodesマップ … 現在障害の発生しているノードを示します。
- IP Networkマップ … ネットワーク上のIP接続を示します。
- VLAN Networkマップ … ネットワーク上のVLAN構成を示します。

3.2.1 Physical Networkマップ

このマップでは、ネットワーク上のノードとその物理的接続が実線で表示されます。

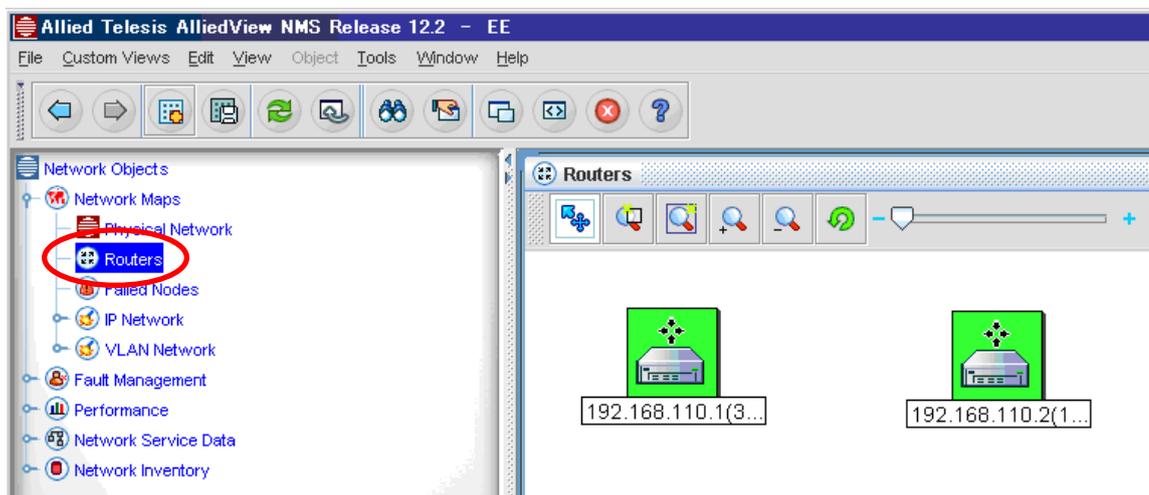
マップ上では各ノードはそのノードの種類に合わせたシンボルで示され、物理的な接続は実線で示されます。



※ ノード間の物理的接続を表示させるためには、リンクを手動で設定する必要があります。
リンクの設定方法については [「3.3 リンク設定」](#) を参照してください。

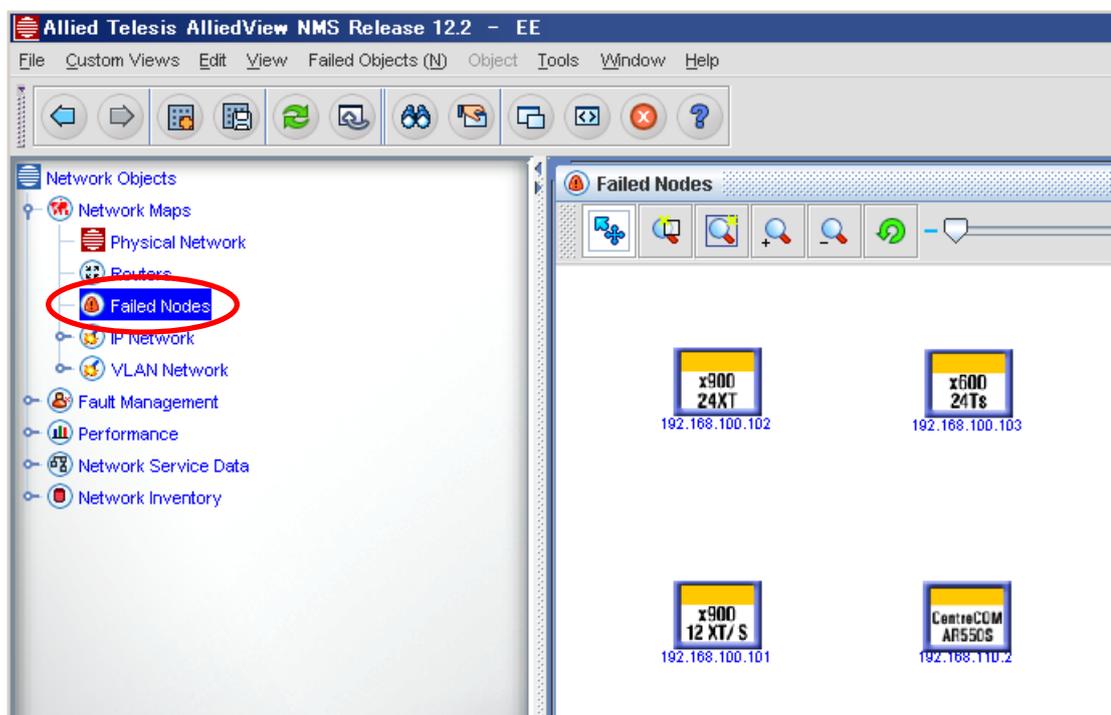
3.2.2 Routersマップ

このマップでは、ネットワーク上のルーターが表示されます。
マップ上では検出されたルーターが、シンボルで示されます。



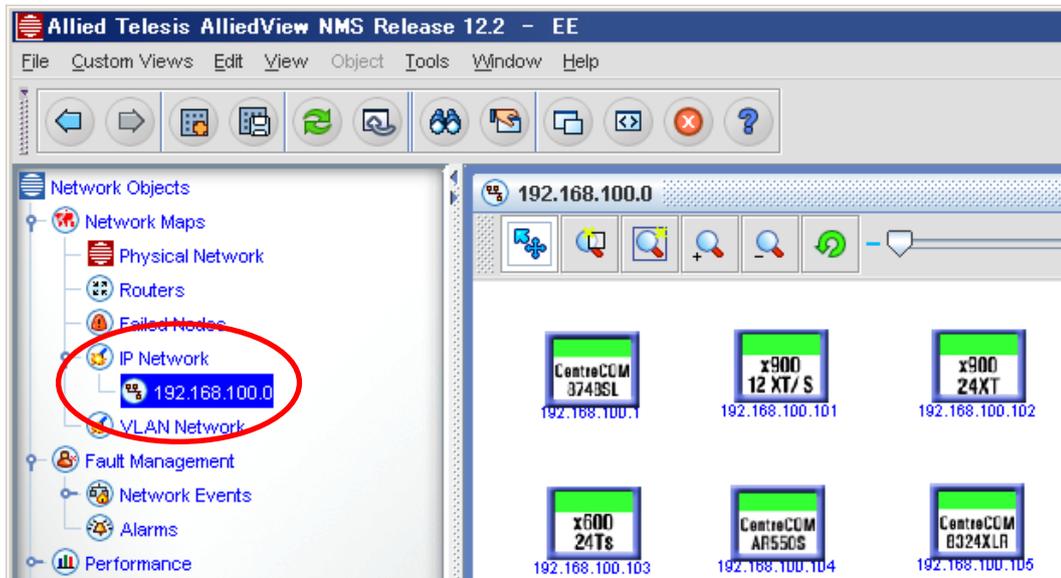
3.2.3 Failed Nodesマップ

このマップでは、Major または Critical のアラームが発生しているすべてのノードが表示されます。
マップ上では各ノードが、該当のアラーム状態を示す色で表示されます。



3.2.4 IP Networkマップ

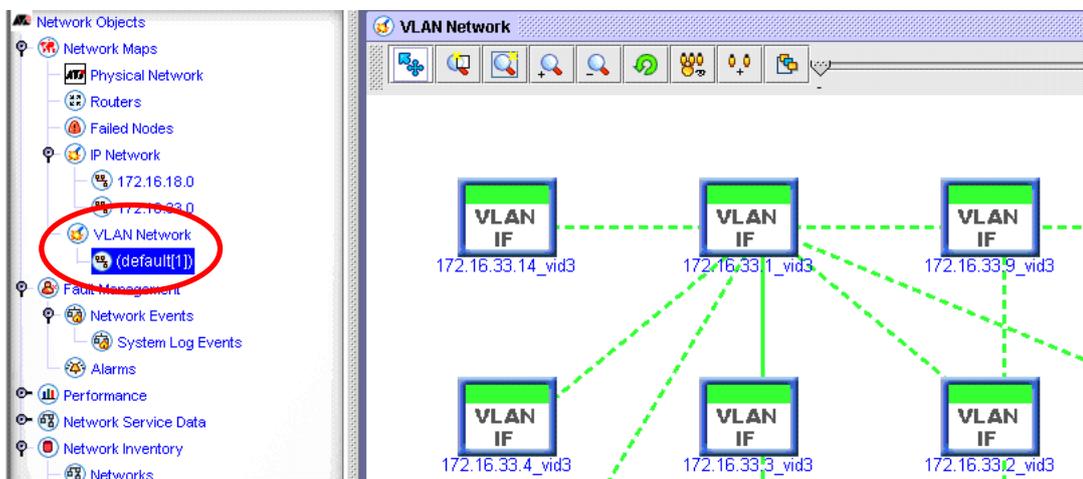
このマップでは、検出された IP ネットワークの構成が表示されます。
マップ上では、検出された IP ネットワークとルーター、論理的な接続がそれぞれシンボルで示されます。
IP ネットワーク内には 1 つ以上のサブネットマップが存在し、表示範囲を特定のサブネットの構成に絞り込むことができます。



※ IP Network マップ画面で表示される実線は、物理的な接続ではなく、論理的な接続を示します。

3.2.5 VLAN Networkマップ

このマップでは、検出された VLAN の構成が表示されます。
マップ上では、検出された VLAN インターフェイスがそれぞれシンボルで示され、ネットワーク上の論理的な接続は実線で、VLAN インターフェイス間の接続は破線で示されます。
VLAN ネットワーク内には 1 つ以上のサブネットマップが存在し、表示範囲を特定のサブネットの構成に絞り込むことができます。



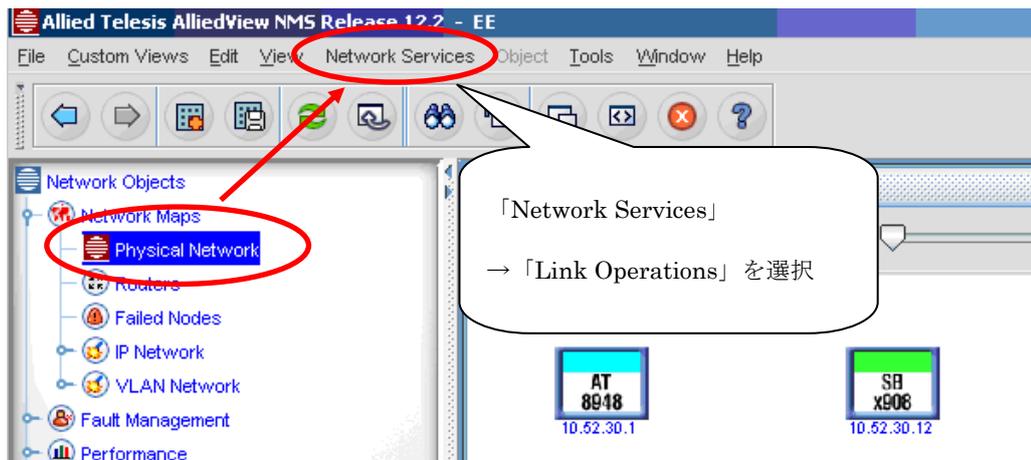
※ VLAN Networkマップ上で接続状態を表示させるには、あらかじめリンクが設定されている必要があります。
リンクの設定方法については「[3.3 リンク設定](#)」を参照してください。

3.3 リンク設定

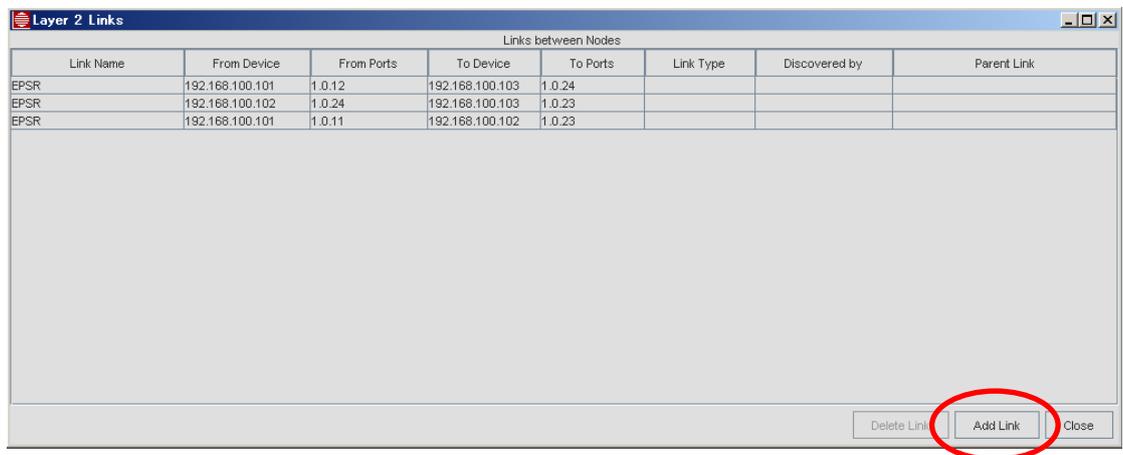
Physical Network マップでの、ノード間の接続方法について説明します。

Physical Network マップで物理的な接続を設定すると、それに連動して IP Network マップと VLAN Network マップでも接続状態が表示されます。

- (1) Physical Network マップを選択した状態で、メニューから「Network Services」→「Link Operations」を選択します。



- (2) 「Layer 2 Links」画面が表示されたら、「Add Link」をクリックします。



(3) 下記のダイアログが表示されたら、リンク情報を入力し、「Add Link」をクリックします。

「Select Device」をクリックしてノードを選択する画面に移行し、From Device、To Deviceのノードを指定

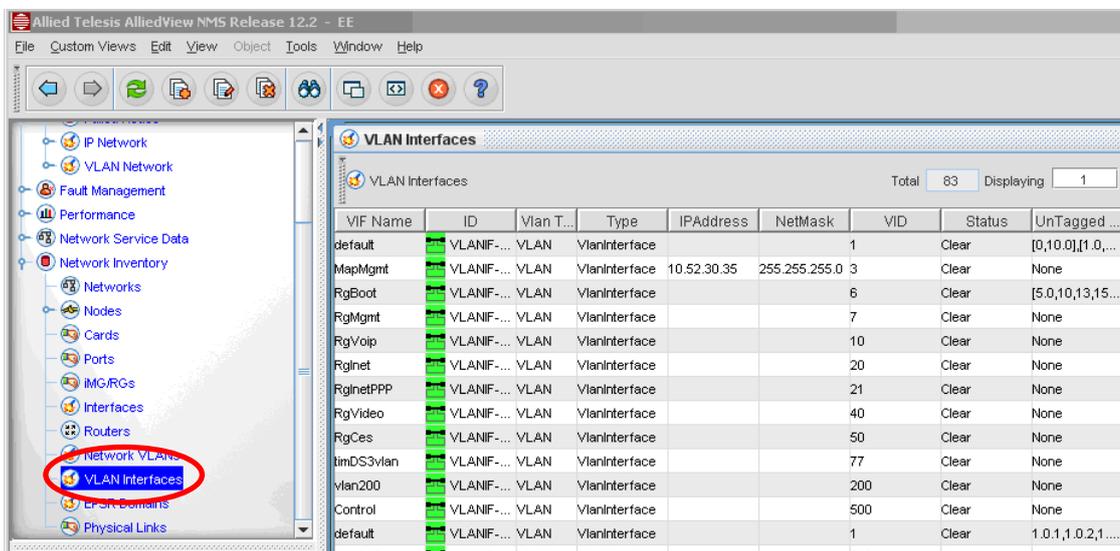
【リンク情報】	
Display Name	: リンク名を指定します。
From Device	: リンク元のノードを指定します。
From Device 下の Port	: リンク元のポートを指定します。
To Device	: リンク先のノードを指定します。
To Device 下の Port	: リンク先のポートを指定します。

(4) リンクが作成されたら、「Close」をクリックして「Layer 2 Links」画面に戻り、「Layer 2 Links」画面で「Close」をクリックして設定を完了します。

※ Physical Network マップ上で 1 本の実線で表されるノード間の接続は、実際には複数のリンク情報を含んでいることがあります(リンクをダブルクリックすることで、「Layer 2 Links」画面が表示して確認できます)。このため、Physical Network マップ上のリンクシンボルをリンクセットと呼びます。

※ 各ネットワーク機器上の VLAN インターフェースは、VLAN Interfaces インベントリテーブルで確認することができます。

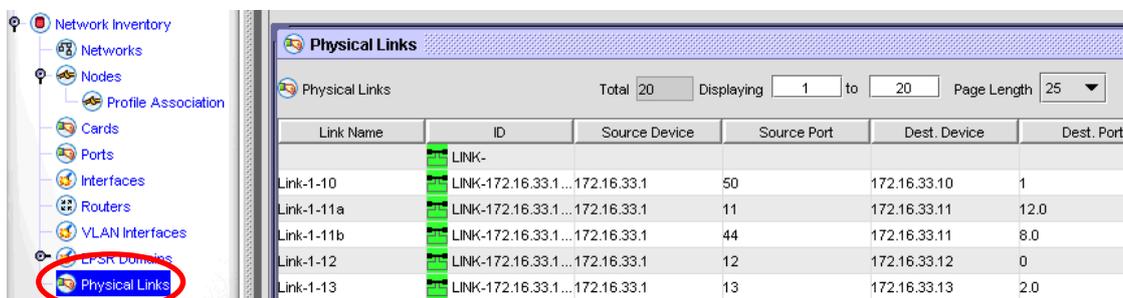
VLAN Interfaces インベントリテーブルを表示するには、NMS ツリーの「Network Inventory」内の「VLAN Interfaces」を選択します。



VIF Name	ID	Vlan T...	Type	IPAddress	NetMask	VID	Status	UnTagged ...
default	VLANIF-...	VLAN	VlanInterface			1	Clear	[0,10,0],[1,0,...
MapMgmt	VLANIF-...	VLAN	VlanInterface	10.52.30.35	255.255.255.0	3	Clear	None
RgBoot	VLANIF-...	VLAN	VlanInterface			6	Clear	[5,0,10,13,15...
RgMgmt	VLANIF-...	VLAN	VlanInterface			7	Clear	None
RgVoip	VLANIF-...	VLAN	VlanInterface			10	Clear	None
Rglnet	VLANIF-...	VLAN	VlanInterface			20	Clear	None
RglnetPPP	VLANIF-...	VLAN	VlanInterface			21	Clear	None
RgVideo	VLANIF-...	VLAN	VlanInterface			40	Clear	None
RgCes	VLANIF-...	VLAN	VlanInterface			50	Clear	None
timDS3vlan	VLANIF-...	VLAN	VlanInterface			77	Clear	None
vlan200	VLANIF-...	VLAN	VlanInterface			200	Clear	None
Control	VLANIF-...	VLAN	VlanInterface			500	Clear	None
default	VLANIF-...	VLAN	VlanInterface			1	Clear	1.0.1,1.0.2,1...

※ ノード間の物理的な接続は、Physical Links インベントリテーブルで確認することができます。

Physical Links インベントリテーブルを表示するには、NMS ツリーの「Network Inventory」内の「Physical Links」を選択します。



Link Name	ID	Source Device	Source Port	Dest. Device	Dest. Port
Link-1-10	LINK-				
Link-1-11a	LINK-172.16.33.1...	172.16.33.1	50	172.16.33.10	1
Link-1-11b	LINK-172.16.33.1...	172.16.33.1	11	172.16.33.11	12.0
Link-1-12	LINK-172.16.33.1...	172.16.33.1	44	172.16.33.11	8.0
Link-1-13	LINK-172.16.33.1...	172.16.33.1	12	172.16.33.12	0
Link-1-13	LINK-172.16.33.1...	172.16.33.1	13	172.16.33.13	2.0

4

補足資料

AlliedView NMSのシャーシビュー機能およびネットワークマップ機能の対応機種の一覧は、以下の通りです。

機種名	シャーシビュー	ネットワークマップ
SwitchBlade x908	○	○
SwitchBlade x3112	○	○
AT-x900-24XT	○	○
AT-x900-24XS	○	○
AT-x900-12XT/S	○	○
AT-x600-48Ts	○	○
AT-x600-48Ts/XP	○	○
AT-x600-24Ts	○	○
AT-x600-24Ts/XP	○	○
CentreCOM 8748XL	○	○
CentreCOM 8748SL	○	○
CentreCOM 8724SL V2	○	○
CentreCOM 8724SL	○	○
CentreCOM 8424XL	○	○
CentreCOM 8424TX	○	○
CentreCOM 8324XL(RoHS 指令対応版 / 未対応版)	○	○
CentreCOM 8316XL(RoHS 指令対応版 / 未対応版)	○	○
CentreCOM 9048XL	○	○
CentreCOM GS924M V2	○	○
CentreCOM GS916M V2	○	○
CentreCOM GS908M V2	○	○
CentreCOM GS924M	○	○
CentreCOM GS916M	○	○
CentreCOM GS908M	○	○
CentreCOM FS926M	○	○
CentreCOM FS917M	○	○
CentreCOM FS909M	○	○
CentreCOM FS808M	○	○
CentreCOM AR570S	○	○
CentreCOM AR560S	○	○
CentreCOM AR550S	○	○
CentreCOM AR415S	○	○
CentreCOM MC2700-10(対応モジュール:AT-MC230)	○	○
NetScreen-50	-	○
NetScreen-208	-	○
SSG 550M	-	○

※表中の「○」は対応、「-」は未対応を表します。

マニュアルバージョン

2010年	12月	Rev.A	初版
2011年	6月	Rev.B	パッチファイルインストール手順追加

発行元: アライドテレシス株式会社
